第3章　対象事業実施区域及び周囲の概況

地域特性に関する情報を把握する範囲は、対象事業実施区域から概ね半径２km以内の区域を基本とし、適宜、調査対象項目により適切に設定した。なお、地域特性に関する情報は、原則として、令和５年１２月末現在で一般に入手可能な既存資料により把握した。

情報を把握する範囲は、本事業による環境への影響が最も広範囲に及ぶものとして考えられる施設の稼働（大気質：煙突排ガスの最大着地濃度出現予想距離）をもとに、次の点を勘案し設定した。

・「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」（平成18年９月　環境省）において、煙突排ガスによる影響の調査対象地域として、最大着地濃度出現予想距離の概ね２倍を見込んで設定した例が示されている。

・計画施設における最大着地濃度出現予想距離は、類似事例を参考とすると1.0km程度と考えられる（表3.1　類似事例参照）。

表 3.1　類似事例

事例	作成年月	稼働年度	事業者名	処理方式	処理能力（t/日）	炉数	煙突高さ（m）	排ガス量(湿)（m^3N/h・１炉あたり）	最大着地濃度出現距離(m)
東大阪都市清掃施設組合 新工場建設事業	平成22年1月	H29	東大阪都市清掃施設組合	ストーカ式	400	2	70	62,800	1,000
北名古屋ごみ焼却工場建設事業	平成26年3月	R2	名古屋市	シャフト炉式 ガス化溶融炉	660	2	100	100,000	920
環境影響評価書 －目黒清掃工場建替事業－	平成28年6月	R4	東京二十三区 清掃一部事務組合	ストーカ式	600	2	約150	102,550	約900
(仮称)新･日明工場建設事業	平成31年3月	R7(予定)	北九州市	ストーカ式	508	2	59	74,000	810

出典：各事業環境影響評価書(生活環境影響調査書)

なお、本事業における最大着地濃度出現距離は、「第4章　計画段階環境配慮書の概要　2.2 大気質（存在及び供用：施設の稼働）」での予測結果（「福岡市西部工場建替事業に係る計画段階環境配慮書」（令和3年10月）で予測を行った値）において、表3-1に示す類似事例と同程度の距離約752～813mとなっている。

1　自然的状況

1.1　大気環境の状況

1)　気象

対象事業実施区域に近い地域気象観測所としては、福岡地域気象観測所（気温、雨、日照：福岡市中央区大濠、風：福岡市中央区六本松）があげられ、対象事業実施区域との距離は約 7.6km である（図 3.1.1-1）。

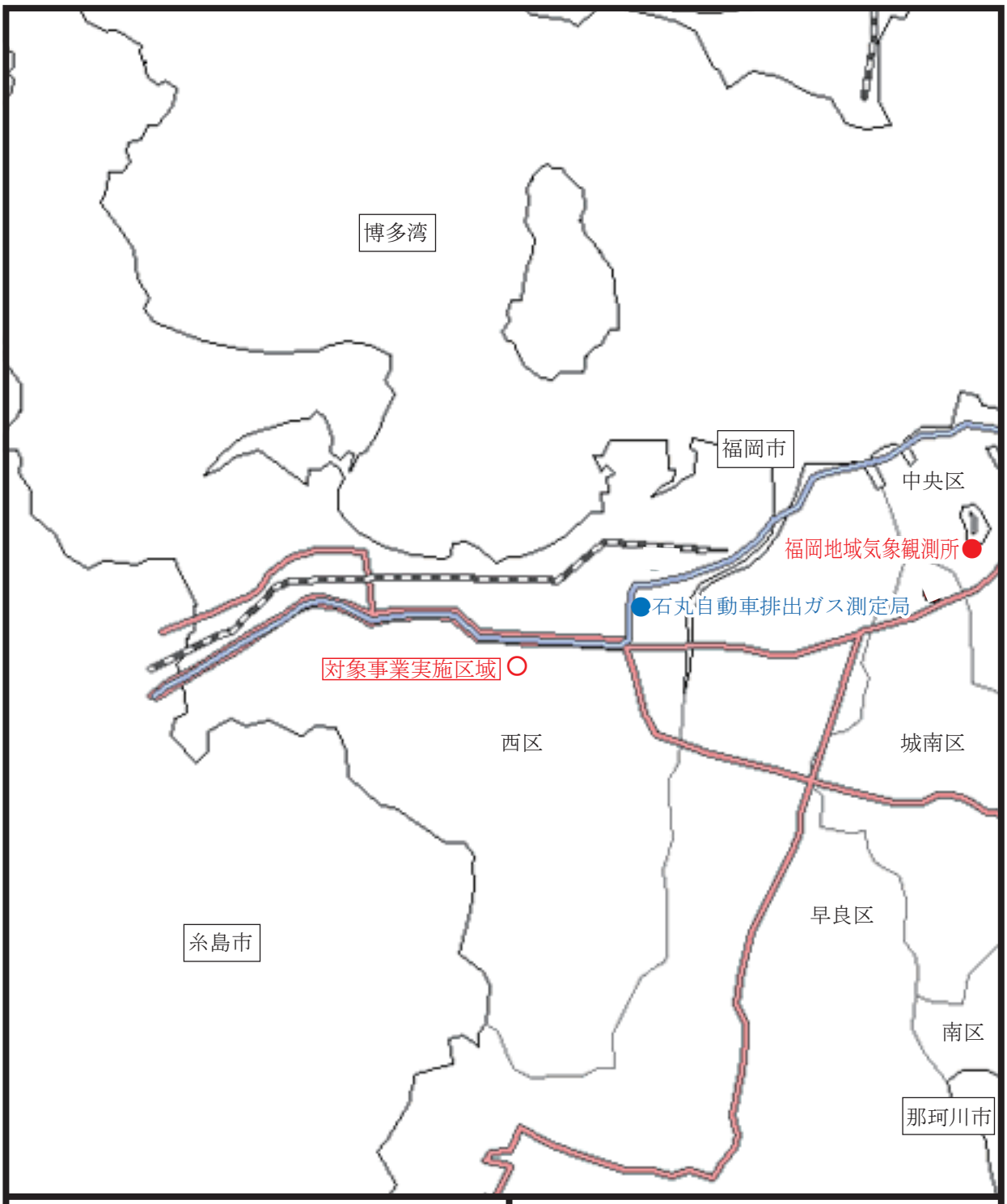
気象状況は表 3.1.1-1 に示すとおりである。降水量は年により差はあるが過去 10 年での平均は 1,779.0mm、日平均気温は同じく 17.8℃、平均湿度は 69%、平均風速は 2.8m/s、最多風向は北となっている。

表 3.1.1-1　気象の状況（福岡地域気象観測所）

年　月	降水量(mm)				気温(℃)			湿度(%)		風速 (m/s)	最多風向 注1	全天日射量 (MJ/m^2)	雲量
	合計	最大			平均								
		日	1時間	10分間	日平均	日最高	日最低	平均	最小	平均		平均	平均
平成26	1,765.5	105.0	34.0	13.0	17.1	21.2	13.8	69	10	2.9	北)	12.3	7.1
27	1,867.5	75.5	46.5	21.0	17.3	21.3	14.1	71	12	2.8	北)	13.3	7.1
28	2,420.5	142.0	41.5	17.0	18.1	22.1	14.8	73	13	2.7	北)	13.3	7.5
29	1,318.5	82.5	25.0	9.5	17.6	21.6	14.2	69	14	2.8	北)	14.3	7.0
30	1,617.0	236.0	45.0	13.5	17.7	21.8	14.3	69	12	2.8	北)	14.2	6.6
31(令和元年)	1,608.5	130.5	37.5	14.0	17.9	22.1	14.6	70	15	2.7	北)	13.8	6.9
令和 2	2,212.5	167.0	47.5	16.5	17.9	21.9	14.6	69	17	2.9	北)	14.0	6.6
3	1,979.0	231.5	51.5	16.5	18.2	22.4	14.8	68	16	2.9	南東)	14.0	6.8
4	1,232.5	125.5	68.0	17.0	18.0	22.0	14.6	67	18	2.8	北	14.7	6.7
5	1,768.0	198.0	60.0	21.0	18.5	22.6	15.1	69	14	2.8	北	14.0	6.8
1月	97.0	25.0	8.0	3.0	7.2	10.7	3.9	67	32	2.7	南東	7.6	6.8
2	60.0	14.5	10.0	5.0	9.0	13.1	5.5	66	32	2.7	北	11.0	6.9
3	89.5	20.5	6.0	3.0	13.6	18.4	9.6	67	20	2.7	北	15.3	6.0
4	182.0	48.0	19.0	7.0	16.7	21.0	12.8	65	14	3.1	北	17.7	6.4
5	246.0	79.0	16.5	4.0	20.2	24.5	16.6	71	21	3.1	北	18.4	7.4
6	169.0	47.5	11.0	5.5	24.4	28.3	21.5	76	30	2.5	北)	16.8	8.3
7	536.5	198.0	60.0	21.0	28.9	32.9	25.8	75	44	2.7	南東	16.8	7.9
8	164.0	58.5	26.0	14.5	29.7	33.9	26.9	73	44	3.1	南東	19.3	6.7
9	104.5	42.0	25.5	11.0	26.9	30.7	24.1	76	35	2.7	北	14.8	6.7
10	23.0	14.5	3.0	2.0	19.8	24.3	16.1	64	33	2.6	北	14.4	5.4
11	52.0	14.5	5.5	3.0	15.1	19.5	11.2	64	33	2.7	南東	9.6	5.8
12	44.5	12.5	4.0	3.5	9.9	13.5	6.8	69	29	2.7	南東)	6.4	7.2
過去10年	1,779.0	236.0	68.0	21.0	17.8	21.9	14.5	69	14	2.8	北)	13.8	6.9

注：表中の")"は、準正常値を示す。準正常値とは「統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う。必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なるが、全体数の80%を基準とする。」を示す。

出典：過去の気象データ（気象庁ホームページ）



凡例

○：対象事業実施区域

●：福岡地域気象観測所
注1：気温、雨、日照：福岡市中央区大濠
注2：風：福岡市中央区六本松
注3：対象事業実施区域からの距離 約7.6km

●：石丸自動車排出ガス測定局
注1：対象事業実施区域からの距離 約2.1km

N

「Craft MAP(http://www.craftmap.box-i.net)を加工して作成」

図3.1.1-1　福岡地域気象観測所等の位置

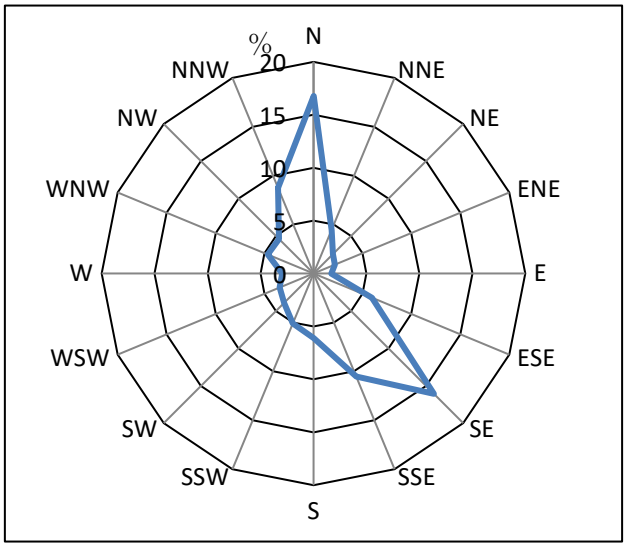
なお、風向頻度についてみると、表 3.1.1-2 及び図 3.1.1-2 に示すとおり、福岡地域気象観測所（令和 5 年）は、北に次いで南東の風の出現率が高くなっている。また、大気常時監視測定局（石丸：自動車排出ガス測定局、令和 4 年度）は、南南東に次いで南東の風の出現率が高くなっている。

表 3.1.1-2 (1/2) 風向出現率（福岡地域気象観測所）

年 月	平均風速 (m/s)	風向別観測率(%)																
		静穏	北北東	北東	東北東	東	東南東	南東	南南東	南	南南西	南西	西南西	西	西北西	北西	北北西	北
令和5(2023)年	2.8	0.3	4.4	2.6	2.2	1.7	6.0	16.1	10.5	6.1	5.1	3.9	3.5	2.9	4.7	4.6	8.8	16.8
1月	2.7	0.1	2.3	2.0	0.9	1.2	6.3	17.9	11.2	5.0	6.3	4.2	4.6	5.1	9.3	9.0	8.1	6.6
2月	2.7	0.4	8.5	7.4	3.1	2.8	7.4	12.6	8.6	4.6	4.6	2.8	1.9	2.2	3.3	2.5	8.2	18.8
3月	2.7	0.5	2.4	2.2	1.2	2.0	5.9	14.0	11.2	5.4	3.2	5.4	3.4	1.3	1.1	2.7	12.9	25.3
4月	3.1	0.3	5.3	2.9	1.5	1.8	7.1	13.3	7.9	6.9	2.6	5.0	5.0	3.5	5.7	5.8	8.3	16.9
5月	3.1	0.3	4.2	2.3	1.3	1.5	8.7	16.1	8.6	3.4	2.0	3.5	2.7	1.9	2.0	3.1	11.2	27.3
6月	2.5	0.3	2.9	1.3	0.6	0.7	6.5	14.2	9.3	6.5	5.4	3.6	4.9	2.4	3.8	5.8	12.5	19.3
7月	2.7	0.0	4.0	0.8	0.7	2.0	5.8	16.5	10.5	15.3	11.2	2.4	2.4	1.7	1.9	2.3	7.0	15.5
8月	3.1	0.1	2.8	2.6	8.3	3.9	5.5	21.9	9.7	5.1	2.3	1.9	2.4	0.5	0.1	3.1	9.3	20.4
9月	2.7	0.1	9.0	2.6	2.8	1.1	3.8	13.8	11.7	5.1	3.8	4.2	5.4	1.7	2.4	4.3	7.6	20.7
10月	2.6	0.1	7.1	4.8	3.6	1.3	3.5	13.0	12.1	6.6	6.5	5.6	1.5	2.6	3.0	4.8	7.1	16.7
11月	2.7	0.6	2.8	1.4	0.6	0.7	4.6	16.5	11.9	4.6	6.5	5.4	4.0	7.1	11.7	4.4	7.5	9.7
12月	2.7	0.1	2.4	1.1	1.3	1.1	6.7	22.3	13.5	4.3	6.7	3.0	3.4	5.4	12.0	7.0	5.4	4.3

注：静穏とは、風速0.2m/s以下をいう。

出典：「過去の気象データ」（気象庁ホームページ）



出典：過去の気象データ（気象庁ホームページ）

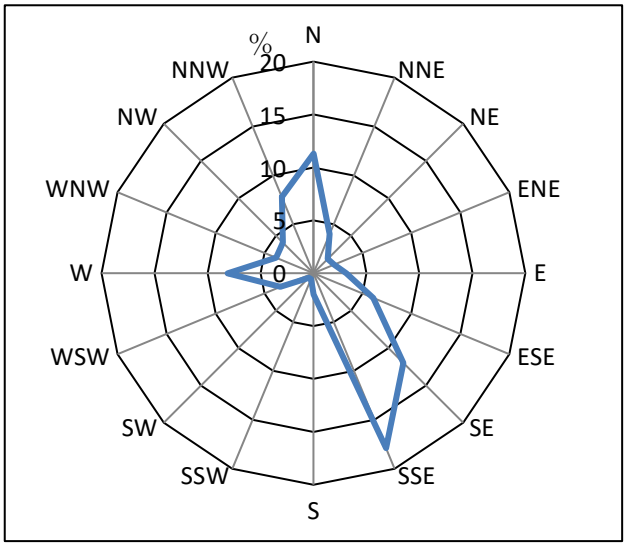
図 3.1.1-2 (1/2) 風配図（福岡地域気象観測所）：令和 5 年

表 3.1.1-2 (2/2) 風向出現率（石丸自動車排出ガス測定局）

風向別観測率(%)																
北	北北東	北東	東北東	東	東南東	南東	南南東	南	南南西	南西	西南西	西	西北西	北西	北北西	CALM
11.3	4.0	1.9	2.1	3.1	6.1	12.0	17.9	2.0	0.6	0.6	3.4	8.1	3.8	4.1	7.8	11.2

注：CALMとは、風速0.4m/s以下をいう。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局



出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局

図 3.1.1-2 (2/2) 風配図（石丸自動車排出ガス測定局）：令和 4 年度

2) 大気質

(1) 大気環境の状況

対象事業実施区域に近い一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）としては、祖原測定局、元岡測定局があげられ、測定項目等を考慮して春吉測定局における測定結果をあわせて整理した。また、同様に自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）としては、石丸測定局及び今宿測定局があげられ、西新測定局における測定結果をあわせて整理した。

各測定局等における測定項目は表 3.1.1-3 に、対象事業実施区域とそれぞれの測定局の位置関係は図 3.1.1-3 に示すとおりである。

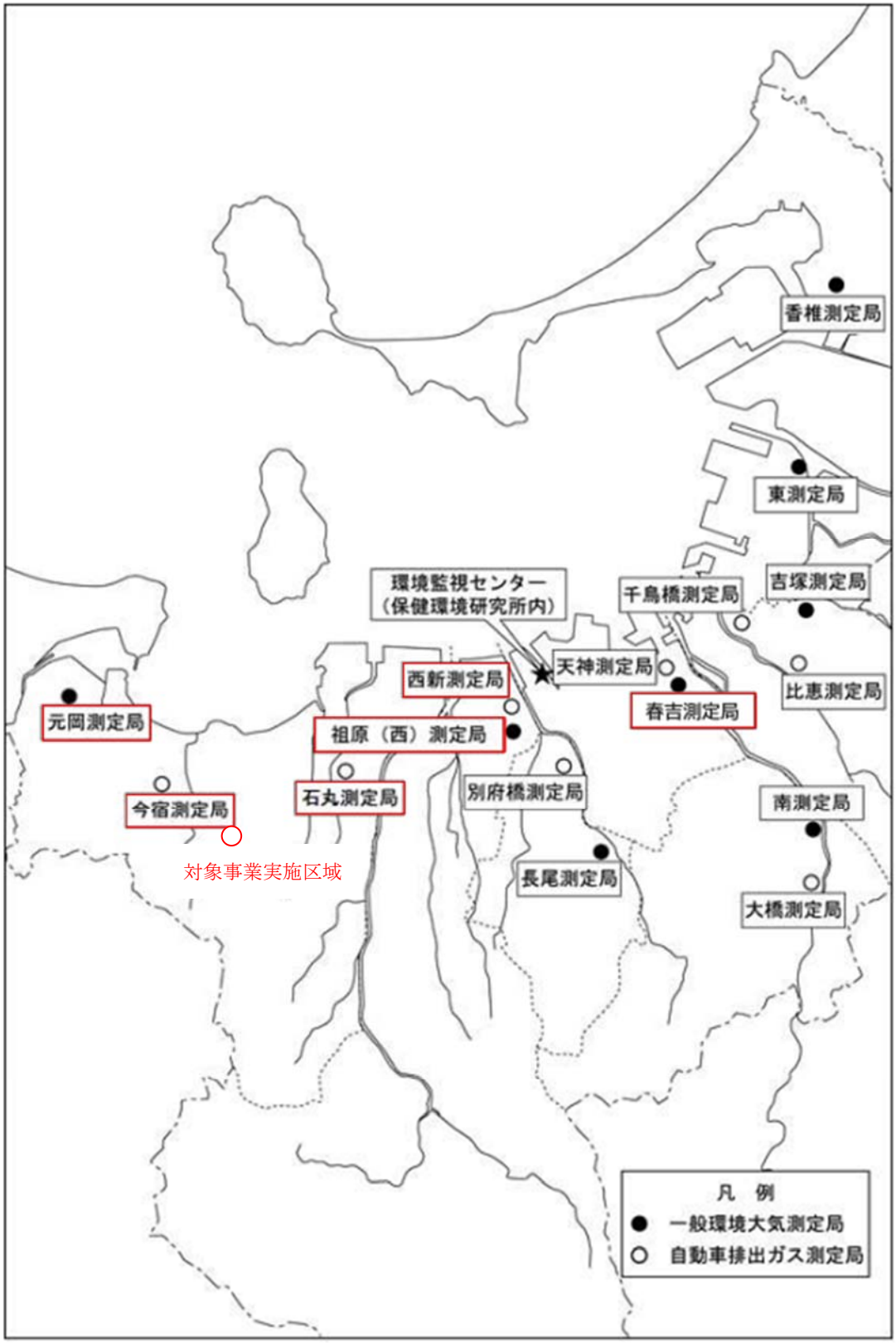
表 3.1.1-3　各測定局等における測定項目

測定局等 ＼ 測定項目		二酸化硫黄	窒素酸化物	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	有害大気汚染物質	ダイオキシン類	対象事業実施区域からの距離(km)
一般局	春吉	○	○	○	○	○	－	○	10.6
	祖原	○	○	○	○	－	－	－	5.8
	元岡	－	○	○	○	○	－	○	4.5
自排局	西新	－	○	－	○	○	○	○	6.2
	石丸	－	○	○	○	○	－	－	2.1
	今宿	－	○	－	○	－	－	－	1.9

注：市役所測定局は令和４年３月に廃止し、近傍に春吉測定局を令和４年４月に設置。

注：測定している項目は○、測定していない項目はーを記載した。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局



注：赤枠の測定局について測定結果を整理した。
注：市役所測定局は令和４年３月に廃止し、近傍に春吉測定局を令和４年４月に設置。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和４年度（2022 年度）版　福岡市環境局に加筆

図 3.1.1-3　各測定局の位置

① 二酸化硫黄

令和４年度における二酸化硫黄（SO_2）の測定結果は、表 3.1.1-4 に示すとおりであり、環境基準値（長期的評価）を下回っていた。また、経年変化は、図 3.1.1-4 に示すとおり 0.010ppm 以下で推移している。

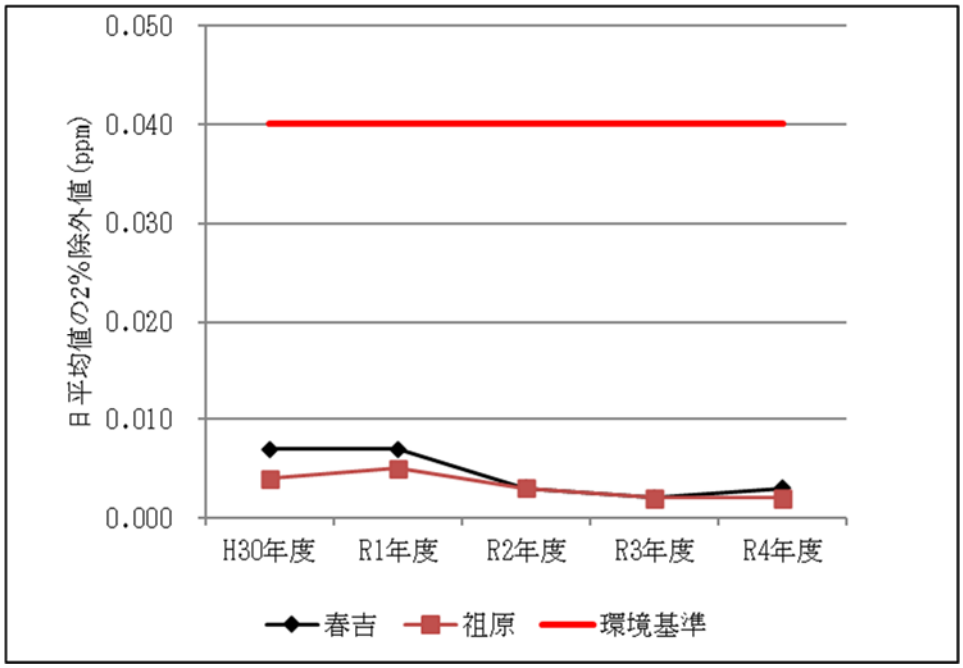
表 3.1.1-4　二酸化硫黄の測定結果

区分	測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.10ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた時間数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	達成状況注	環境基準
		日	時間	ppm	時間	%	日	%	ppm	ppm	有×・無○	○・×	
一般局	春吉	365	8,680	0.001	0	0.0	0	0.0	0.023	0.003	○	○	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。
	祖原	361	8,614	0.001	0	0.0	0	0.0	0.012	0.002	○	○	

注：市役所測定局は令和４年３月に廃止し、近傍に春吉測定局を令和４年４月に設置。

注：年間の1時間値の日平均値の2%除外値が0.04ppm以下であり、かつ日平均値が0.04ppmを超える日が2日以上連続しない場合は○、非達成の場合は×を記載している（長期的評価）。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局
大気の汚染に係る環境基準について　環境庁告示第25号　昭和48年5月8日(最終改正：平成8年10月25日)



注：春吉局のデータの内、H30 年度～R3 年度は市役所局のデータを示す。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」H30 年度～R4 年度版　福岡市環境局

図 3.1.1-4　二酸化硫黄の経年変化

② 二酸化窒素

令和４年度における二酸化窒素（NO_2）の測定結果は、表 3.1.1-5 に示すとおりであり、一般局、自排局ともに環境基準値（長期的評価）を下回っていた。また、経年変化は、図 3.1.1-5 に示すとおり横ばいにある。

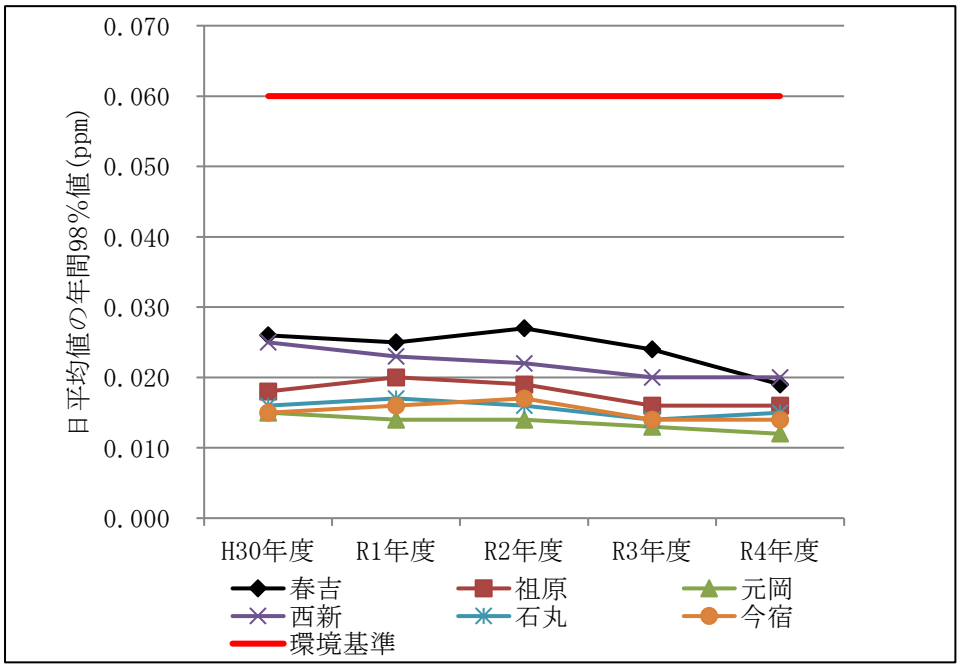
表 3.1.1-5　二酸化窒素の測定結果

区分	測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	達成状況注	環境基準
		日	時間	ppm	ppm	日	%	日	%	ppm	○・×	
一般局	春吉	364	8,681	0.009	0.052	0	0.0	0	0.0	0.019	○	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
	祖原	361	8,614	0.007	0.058	0	0.0	0	0.0	0.016	○	
	元岡	354	8,476	0.005	0.044	0	0.0	0	0.0	0.012	○	
自排局	西新	365	8,683	0.009	0.056	0	0.0	0	0.0	0.020	○	
	石丸	363	8,656	0.006	0.044	0	0.0	0	0.0	0.015	○	
	今宿	365	8,681	0.006	0.047	0	0.0	0	0.0	0.014	○	

注：市役所測定局は令和４年３月に廃止し、近傍に春吉測定局を令和４年４月に設置。

注：年間の1時間値の日平均値の98%値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下である場合は○、非達成の場合は×を記載している（長期的評価）。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局
二酸化窒素に係る環境基準について　環境庁告示第38号　昭和53年7月11日(最終改正：平成8年10月25日)



注：春吉局のデータの内、H30 年度～R3 年度は市役所局のデータを示す。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」H30 年度～R4 年度版　福岡市環境局

図 3.1.1-5　二酸化窒素の経年変化

③　光化学オキシダント

令和４年度における光化学オキシダントの測定結果は、表 3.1.1-6 に示すとおりであり、一般局、自排局ともに環境基準値（短期的評価）を上回っていた。また、昼間の１時間値が 0.06ppm を超えた日数についての経年変化は、図 3.1.1-6 に示すとおり各年度での変動が比較的大きい。

表 3.1.1-6　光化学オキシダントの測定結果

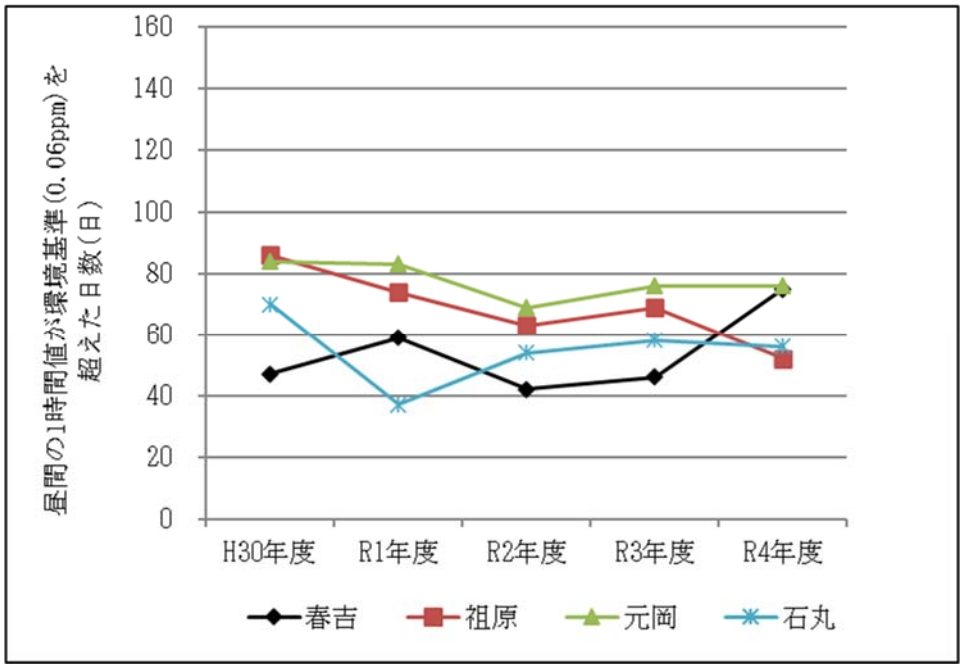
区分	測定局	昼間測定日数	昼間測定時間	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間		昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間		昼間の1時間値の最高値	昼間の日最高1時間値の年平均値	達成状況注	環境基準
		日	時間	ppm	日	時間	日	時間	ppm	ppm	○・×	
一般局	春吉	365	5,449	0.038	75	466	0	0	0.103	0.050	×	1時間値が0.06ppm以下であること。
	祖原	363	5,406	0.034	52	313	0	0	0.100	0.045	×	
	元岡	358	5,319	0.039	76	490	0	0	0.097	0.051	×	
自排局	石丸	365	5,452	0.035	56	278	0	0	0.092	0.047	×	

注：市役所測定局は令和４年３月に廃止し、近傍に春吉測定局を令和４年４月に設置。

注：1時間値が0.06ppm以下である場合は○、非達成の場合は×を記載している（短期的評価）。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局

大気の汚染に係る環境基準について　環境庁告示第25号　昭和48年5月8日(最終改正：平成8年10月25日)



注：春吉局のデータの内、H30 年度～R3 年度は市役所局のデータを示す。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」H30 年度～R4 年度版　福岡市環境局

図 3.1.1-6　光化学オキシダントの経年変化

④　浮遊粒子状物質

令和４年度における浮遊粒子状物質（SPM）の測定結果は、表 3.1.1-7 に示すとおりであり、一般局、自排局ともに環境基準値（長期的評価）を下回っていた。また、経年変化は、図 3.1.1-7 に示すとおり各年度での変動が比較的大きい。

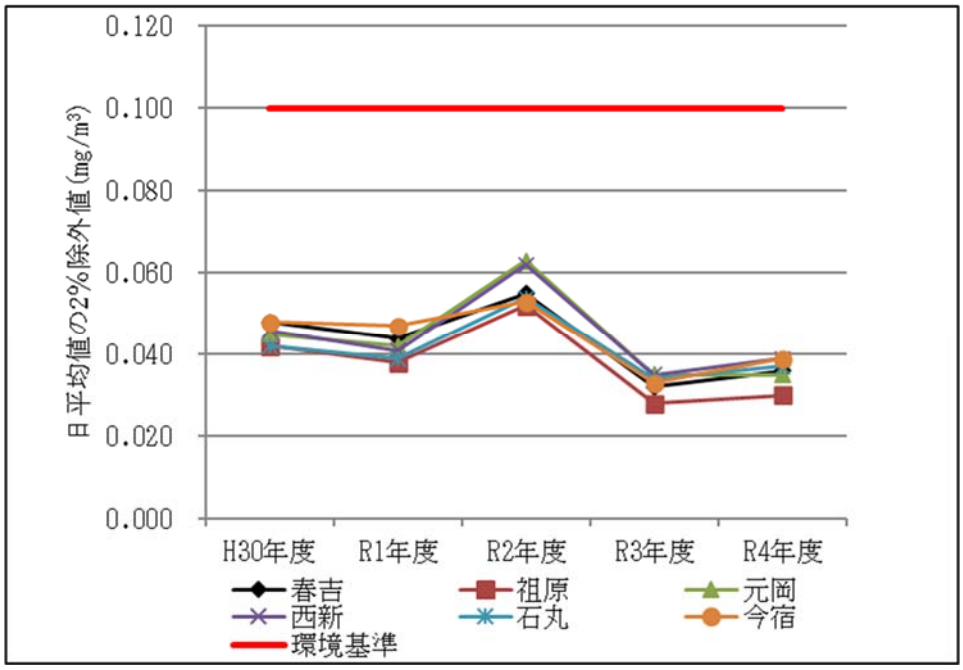
表 3.1.1-7　浮遊粒子状物質の測定結果

区分	測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.20mg/m³を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m³を超えた時間数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m³を超えた日が2日以上連続したことの有無	達成状況注	環境基準
		日	時間	mg/m³	時間	%	日	%	mg/m³	mg/m³	有×・無○	○・×	
一般局	春吉	363	8,713	0.016	0	0.0	0	0.0	0.093	0.036	○	○	1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。
	祖原	357	8,616	0.014	0	0.0	0	0.0	0.141	0.030	○	○	
	元岡	352	8,508	0.016	0	0.0	0	0.0	0.099	0.035	○	○	
自排局	西新	363	8,713	0.018	0	0.0	0	0.0	0.109	0.039	○	○	
	石丸	360	8,668	0.016	0	0.0	0	0.0	0.099	0.037	○	○	
	今宿	363	8,717	0.016	0	0.0	0	0.0	0.104	0.039	○	○	

注：市役所測定局は令和４年３月に廃止し、近傍に春吉測定局を令和４年４月に設置。

注：年間の1時間値の日平均値の2%除外値が0.10mg/m³以下であり、かつ日平均値が0.10mg/m³を超える日が2日以上連続しない場合は○、非達成の場合は×を記載している（長期的評価）。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局
大気の汚染に係る環境基準について　環境庁告示第25号　昭和48年5月8日(最終改正：平成8年10月25日)



注：春吉局のデータの内、H30 年度～R3 年度は市役所局のデータを示す。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」H30 年度～R4 年度版　福岡市環境局

図 3.1.1-7　浮遊粒子状物質の経年変化

⑤　微小粒子状物質

令和４年度における微小粒子状物質（PM2.5）の測定結果は、表 3.1.1-8 に示すとおりであり、一般局、自排局ともに環境基準値を下回っていた。また、年平均値の経年変化は、図 3.1.1-8 に示すとおりで、令和２年度に一般局の元岡で環境基準値を上回っていた。

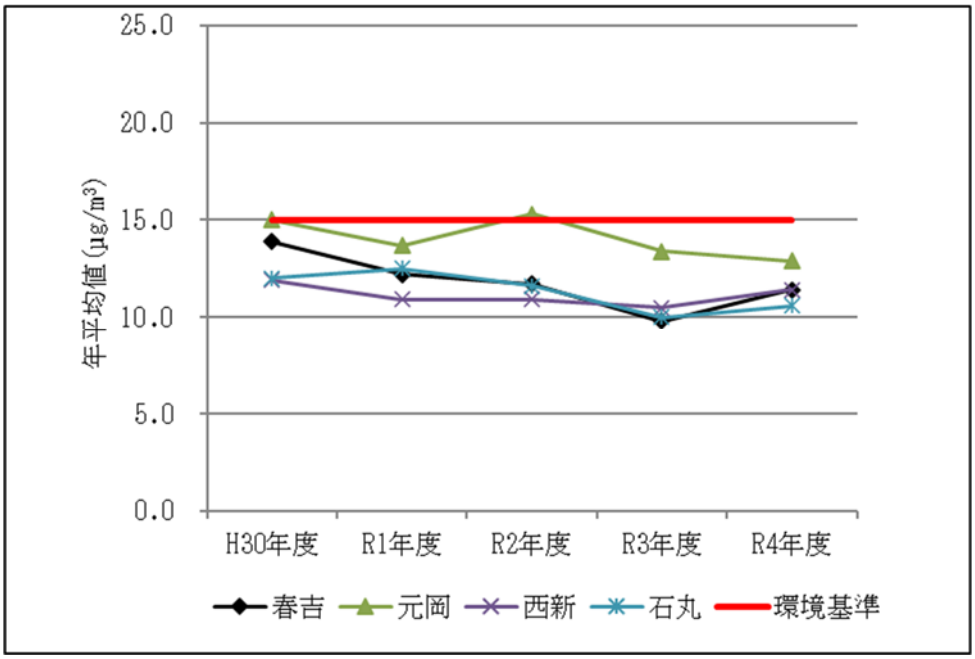
表 3.1.1-8　微小粒子状物質の測定結果

区分	測定局	有効測定日数	年平均値	日平均値の年間98％値	日平均値が35μg/m³を超えた日数とその割合		達成状況注	環境基準
		日	μg/m³	μg/m³	日	%	○・×	
一般局	春吉	359	11.4	26.3	3	0.8	○	1年平均値が15μg/m³以下、かつ、1日平均値が35μg/m³以下であること。
	元岡	347	12.9	27.8	2	0.6	○	
自排局	西新	359	11.4	26.1	2	0.6	○	
	石丸	359	10.6	24.6	3	0.8	○	

注：市役所測定局は令和４年３月に廃止し、近傍に春吉測定局を令和４年４月に設置。

注：年平均値が15μg/m³以下であり、かつ、日平均値の98％値が35μg/m³以下である場合は○、非達成の場合は×を記載している。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局
微小粒子状物質による大気の汚染に係る環境基準について　環境省告示第33号　平成21年9月9日



注：春吉局のデータの内、H30 年度～R3 年度は市役所局のデータを示す。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」H30 年度～R4 年度版　福岡市環境局

図 3.1.1-8　微小粒子状物質の経年変化

⑥　ダイオキシン類

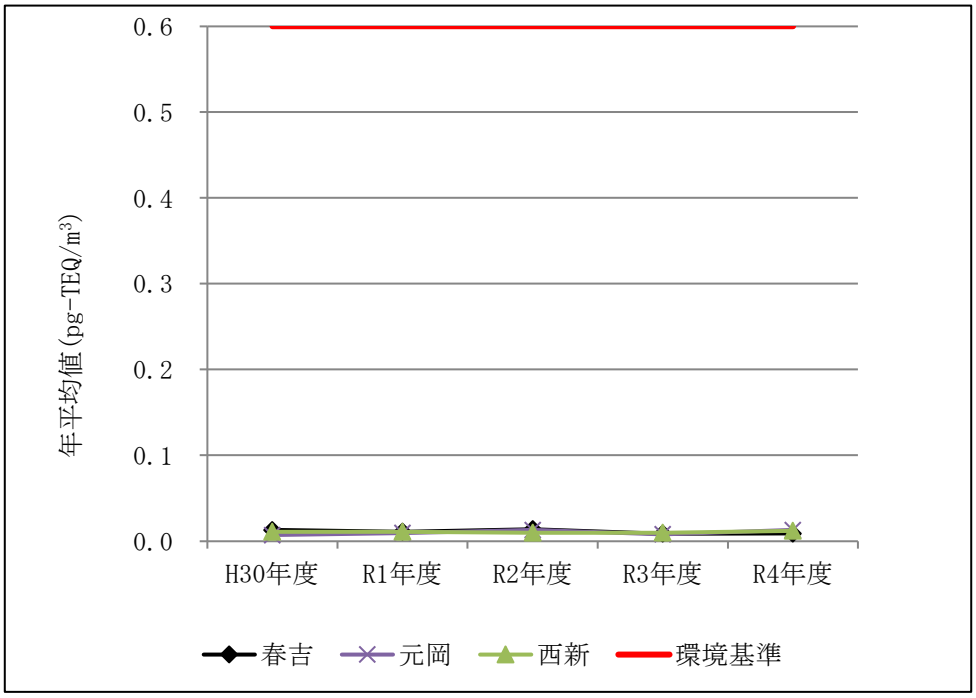
令和４年度におけるダイオキシン類の測定結果は、表 3.1.1-9 に示すとおりであり、3 測定局ともに環境基準値を下回っていた。また、経年変化は、図 3.1.1-9 に示すとおり横ばいにある。

表 3.1.1-9　ダイオキシン類の測定結果

区分	測定局	年平均値	達成状況	環境基準
		pg-TEQ/m^3	○・×	
一般局	春吉	0.0089	○	0.6 pg-TEQ/m^3 以下
	元岡	0.013	○	
自排局	西新	0.012	○	

注：市役所測定局は令和４年３月に廃止し、近傍に春吉測定局を令和４年４月に設置。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局
ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準について　環境庁告示第68号　平成11年12月27日（最終改正：令和4年11月25日）



注：春吉局のデータの内、H30 年度～R3 年度は市役所局のデータを示す。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」H30 年度～R4 年度版　福岡市環境局

図 3.1.1-9　ダイオキシン類の経年変化

⑦　水銀

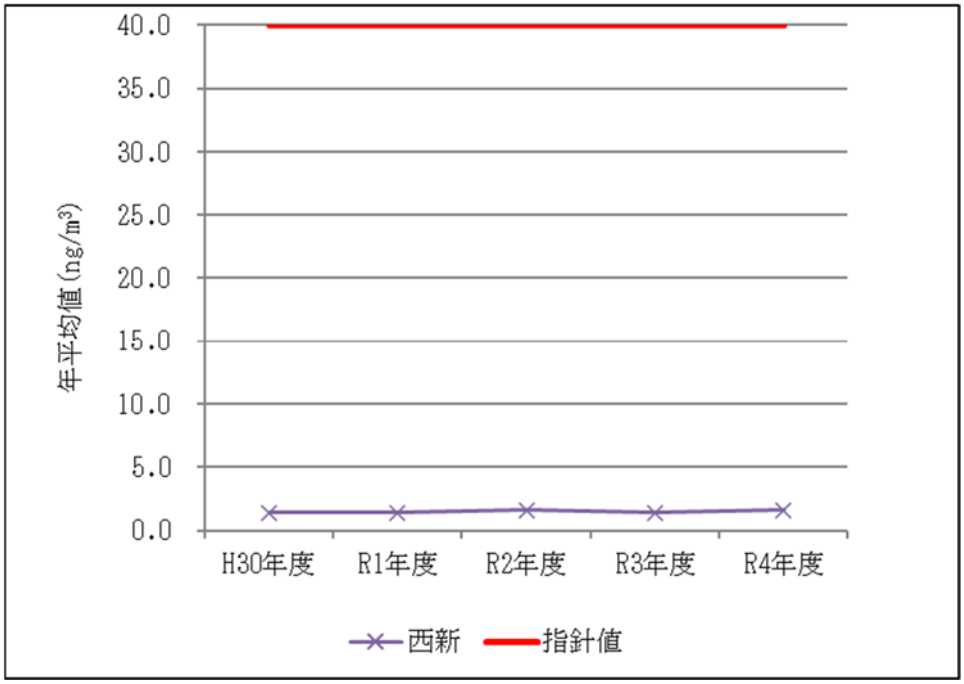
令和４年度における水銀の測定結果は、表 3.1.1-10 に示すとおりであり、西新測定局において指針値を下回っていた。また、経年変化は、図 3.1.1-10 に示すとおり横ばいにある。

表 3.1.1-10　水銀の測定結果

測定局	最大値	最小値	年平均値	達成状況	指針値
	ng/m^3	ng/m^3	ng/m^3	○・×	
西新	2.1	1.1	1.6	○	40 ng/m^3

指針値：今後の有害大気汚染物質対策のあり方について（第７次答申：平成15年７月31日）において示された指針値。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局
「今後の有害大気汚染物質対策のあり方について（第7次答申）」中央環境審議会　平成15年7月



出典：「福岡市大気測定結果報告書」H30 年度～R4 年度版　福岡市環境局

図 3.1.1-10　水銀の経年変化

3) 騒音

(1) 自動車騒音

対象事業実施区域周辺における平成 29 年度から令和 4 年度に実施された自動車騒音の測定結果は、表 3.1.1-11 に示すとおりである（測定地点は図 3.1.1-11 参照）。

これより、一般国道 202 号（西区今宿青木）においては、経年的に環境基準値を上回っており、一般国道 202 号（西区拾六町 5 丁目 4）においても環境基準値を上回っていた。その他、都地姪浜線の２地点及び周船寺有田線では環境基準値を下回っていた。

表 3.1.1-11　自動車騒音の測定結果

単位：dB

No.	測定地点概要				測定結果		環境基準		要請限度（参考）		測定年度
	路線名	評価区間番号	測定地点住所	定点	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	
1	一般国道202号	10390-4	西区今宿青木	●	73	68	70	65	75	70	H30
					73	68					R1
					71	66					R2
					73	68					R3
					72	67					R4
2	一般国道202号	10380-3	西区拾六町5丁目4		71	67					H29
3	都地姪浜線	60360-3	西区石丸2丁目38		68	61					R1
4	都地姪浜線	60360-4	西区内浜2丁目17		66	59					R1
5	周船寺有田線	60370-8	西区壱岐団地71		64	61					R4

注：　　要請限度以下であるが環境基準を超過していることを示す。

出典：「福岡市自動車騒音常時監視結果（自動車騒音・道路交通振動測定結果）」各年度版　福岡市環境局

4) 振動

(1) 道路交通振動

対象事業実施区域周辺における平成 30 年度から令和 4 年度に実施された道路交通振動の測定結果は、表 3.1.1-12 に示すとおりである（測定地点は図 3.1.1-11 参照）。

これより、一般国道 202 号（西区今宿青木）においては経年的に要請限度値を下回っていた。

表 3.1.1-12 道路交通振動の測定結果

単位：dB

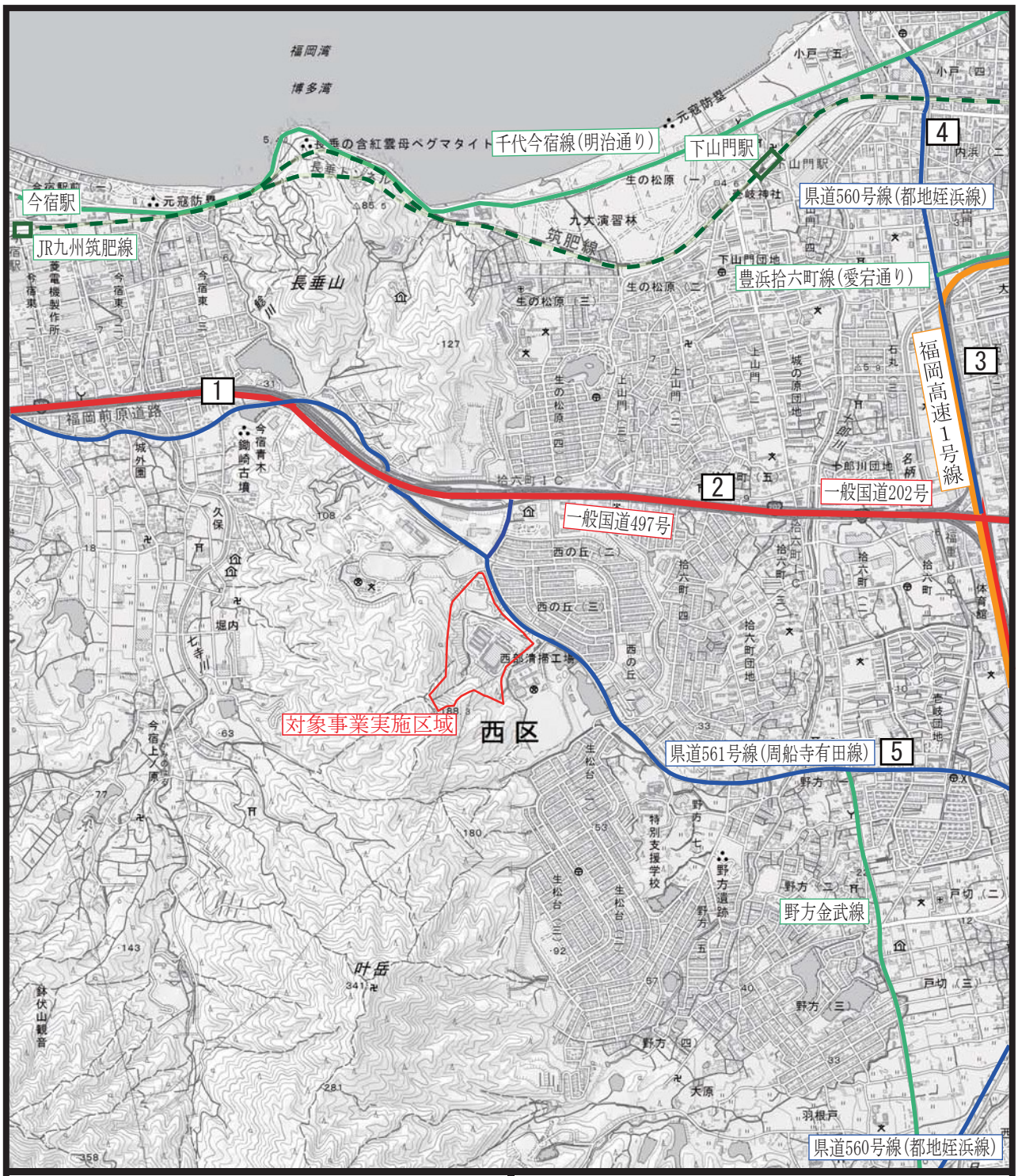
No.	測定地点概要				測定結果（L_{10}）		要請限度（参考）		測定年度
	路線名	評価区間番号	測定地点住所	定点	昼間	夜間	昼間	夜間	
1	一般国道202号	10390-4	西区今宿青木	●	43	38	65	60	H30
					43	37			R1
					43	37			R2
					42	37			R3
					43	38			R4

出典：「福岡市自動車騒音常時監視結果（自動車騒音・道路交通振動測定結果）」各年度版　福岡市環境局

5) 悪臭

対象事業実施区域に隣接して、悪臭の発生源となる施設は見当たらない。

なお、令和 3 年度において、福岡市における悪臭に対する苦情受付は 74 件であり、西区では 11 件であった（p.3-106 「4.1 公害苦情件数」参照）。



凡例

- ：対象事業実施区域
- ：都市高速道路
- ：国道
- ：県道
- ：市道
- ：鉄道

1～5：騒音調査地点
（表3.1.1-11の番号を示す。）

1：振動調査地点
（表3.1.1-12の番号を示す。）

N

S＝1:25,000

0　250　500　1000m

「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

図3.1.1-11　対象事業実施区域周辺における
自動車騒音・道路交通振動の測定結果

1.2　水環境の状況

1)　水象

対象事業実施区域周辺における主な河川の状況は表 3.1.2-1 及び図 3.1.2-1 に示すとおりである。

二級河川として十郎川、七寺川があり、これらはともに博多湾に注いでいる。なお、対象事業実施区域の南東側は十郎川水系の準用河川野方川流域、北西側は七寺川水系の準用河川鯰川流域（図 3.1.2-2 参照）にあたる。

表 3.1.2-1　主な河川の状況

河川名	総延長(m)	流域面積(km^2)	備考
十郎川	3,971	6.6	都市基盤河川改修事業（Ｓ47～Ｓ58）完了
七寺川	2,630	8.3	都市基盤河川改修事業（Ｓ49～H6）完了

出典：「福岡市地域防災計画（資料編）」令和5年6月 福岡市防災会議

2)　水質

(1)　河川の水質

①　生活環境項目等

対象事業実施区域周辺における河川の水質は、十郎川では壱岐橋で、七寺川では上鯰川橋で測定されており、ともに環境基準の類型はＣ、水生生物保全に係る補助地点となっている（図 3.1.2-1 参照)。

これら２地点におけるＢＯＤ（75%値）についての経年変化は、表 3.1.2-2 に示すとおりであり、概ね横ばいにあり、過去５年間でいずれも環境基準値を下回っている。

なお、対象事業実施区域は２つの流域に跨っており、対象事業実施区域からの雨水は、鯰川あるいは広石池上池・広石池下池の２方向に排水されている。

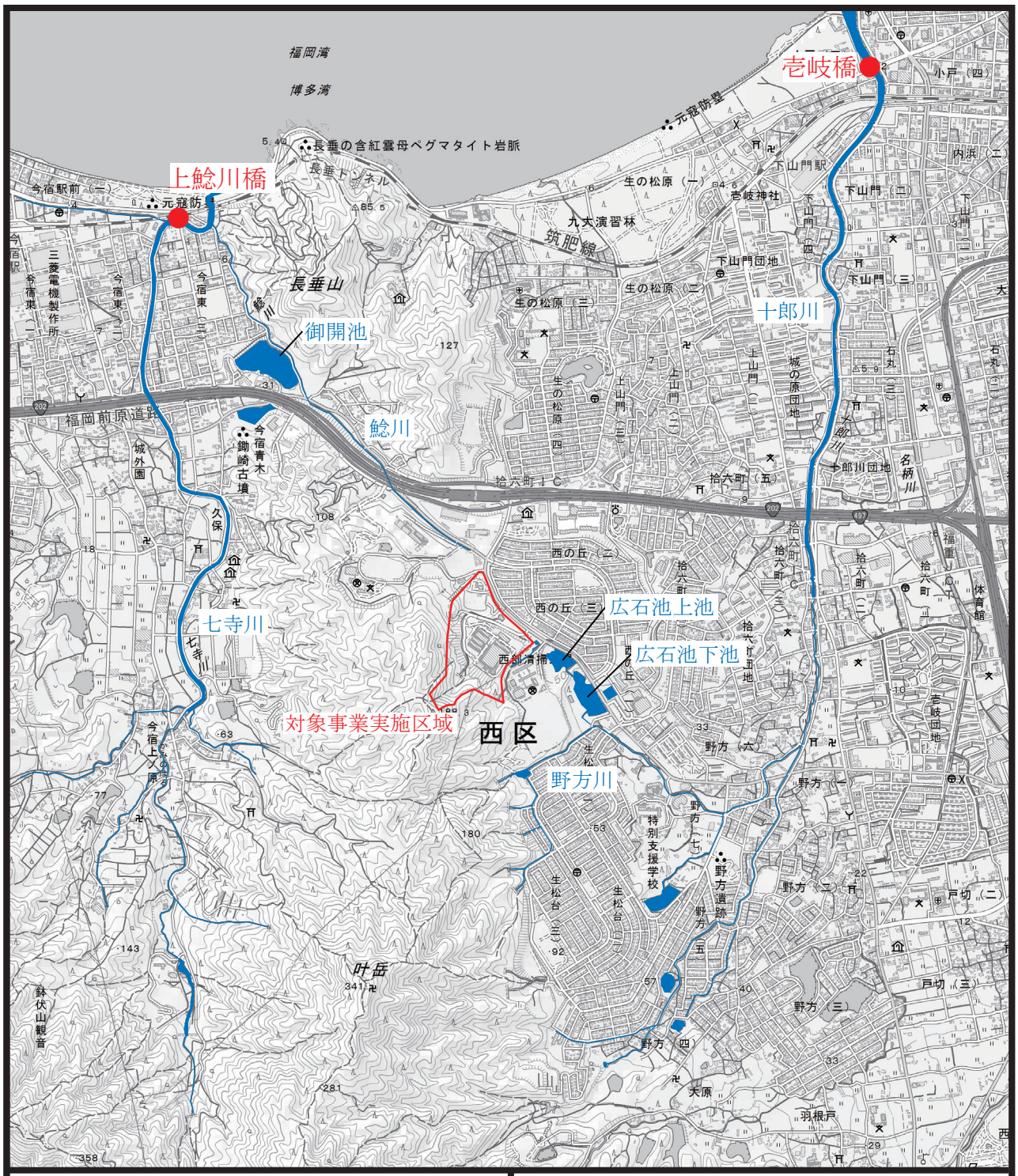
また、令和４年度における生活環境項目等の測定結果は、表 3.1.2-3に示すとおりであり、十郎川（壱岐橋）では、ほう素が環境基準値を上回っていたが、海水の影響によるものと考えられている。七寺川（上鯰川橋）では、すべての項目で環境基準値（指針値）を下回っていた。

表 3.1.2-2　水質経年変化（ＢＯＤ：75%値）

単位：mg/L

河川名	調査地点	類型	環境基準	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
十郎川	壱岐橋	C	5以下	1.0	0.9	0.9	1.1	1.1
七寺川	上鯰川橋	C	5以下	0.9	0.7	0.7	0.8	0.7

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局



凡例

：対象事業実施区域

：主な河川

：水質調査地点

N

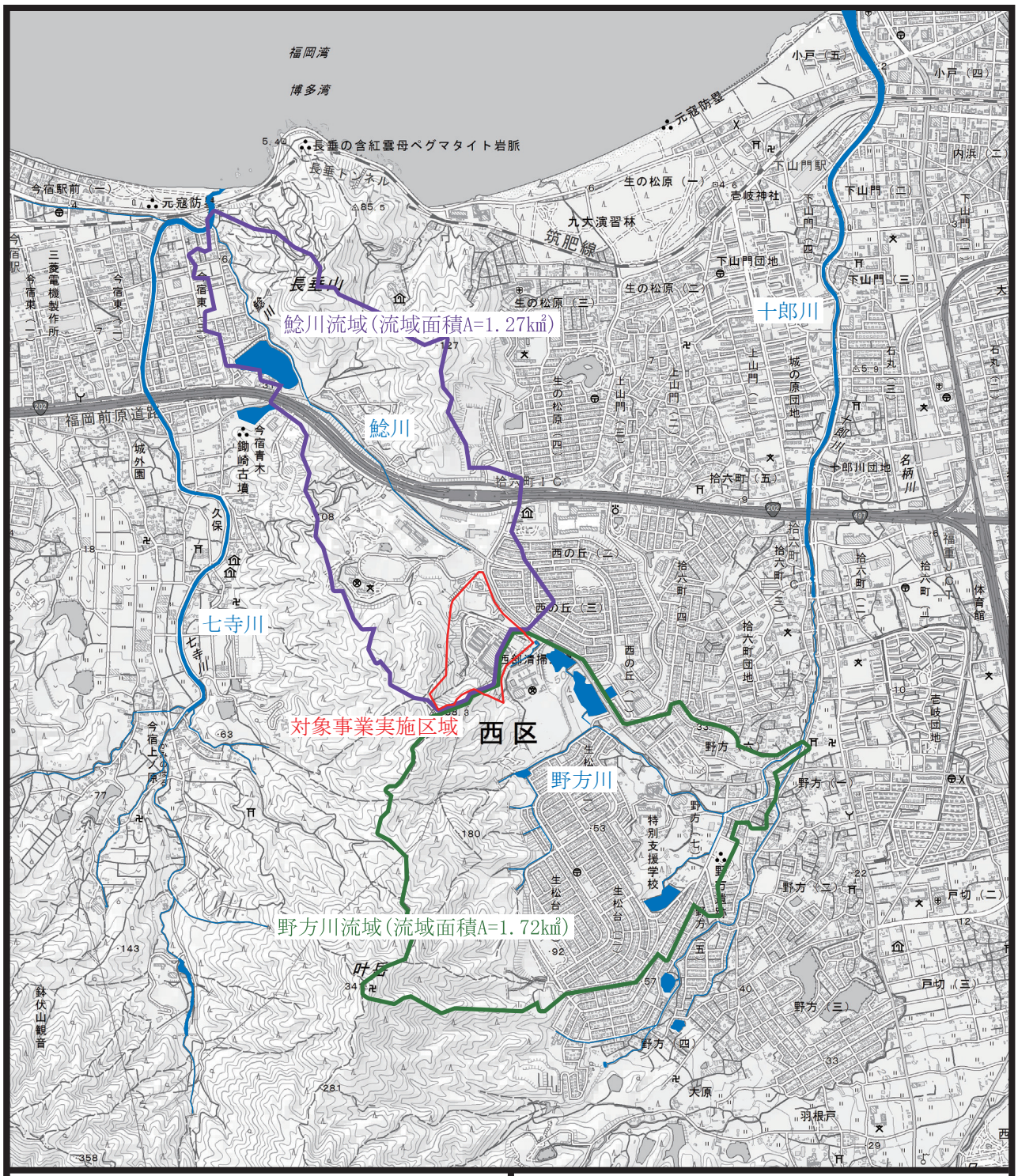
S＝1:25,000

0　250　500　1000m

「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

出典：「福岡市地域防災計画（資料編）」

図3.1.2-1　対象事業実施区域周辺における主な河川等の状況



凡例

：対象事業実施区域

：主な河川

N

S＝1:25,000

0　250　500　1000m

「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

出典：道路下水道局河川計画課提供資料

図3.1.2-2　鯰川及び野方川の流域図

表 3.1.2-3 (1/2) 水質測定結果（十郎川：壱岐橋）

	測定項目	平均	最小値	最大値	m/n	x/y	75%値	k/n	環境基準
現場観測項目	気温(℃)	20.7	7.2	33.5	-/12	-/12	24.0	12/12	－
	水温(℃)	20.4	8.4	32.2	-/12	-/12	24.8	12/12	－
	透視度(cm)	96	62	100	-/12	-/12	100	12/12	－
生活環境項目	ｐＨ（－）	7.6	7.1	8.0	0/12	0/12	7.7	12/12	6.5～8.5
	ＤＯ（mg/L）	8.1	5.3	10	0/12	0/12	9.2	12/12	5以上
	ＢＯＤ（mg/L）	1.2	<0.5	4.8	0/12	0/12	1.1	11/12	5以下
	ＣＯＤ（mg/L）	3.6	2.0	8.4	-/12	-/12	4	12/12	－
	ＳＳ（mg/L）	5	2	7	0/12	0/12	6	12/12	50以下
	大腸菌数(CFU/100mL)	380	16	2800	-/12	-/12	290	12/12	－
	全窒素(mg/L)	0.41	0.23	0.70	-/12	-/12	0.44	12/12	－
	全燐(mg/L)	0.048	0.022	0.11	-/12	-/12	0.062	12/12	－
	全亜鉛（水生生物保全）（mg/L）	0.010	0.005	0.018	-/4	-/4	0.012	4/4	－
	ノニルフェノール（水生生物保全）（mg/L）	<0.00006	<0.00006	<0.00006	-/4	-/4	<0.00006	0/4	－
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(水生生物保全)(mg/L)	0.0007	<0.0006	0.00009	-/4	-/4	0.0007	2/4	－
健康項目	カドミウム（mg/L）								0.003以下
	全シアン（mg/L）								検出されないこと
	鉛（mg/L）								0.01以下
	六価クロム（mg/L）								0.05以下
	砒素（mg/L）								0.01以下
	総水銀（mg/L）								0.0005以下
	アルキル水銀（mg/L）								検出されないこと
	PCB（mg/L）								検出されないこと
	ジクロロメタン（mg/L）								0.02以下
	四塩化炭素（mg/L）								0.002以下
	1,2-ジクロロエタン（mg/L）								0.004以下
	1,1-ジクロロエチレン（mg/L）								0.1以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン（mg/L）								0.04以下
	1,1,1-トリクロロエタン（mg/L）								1以下
	1,1,2-トリクロロエタン（mg/L）								0.006以下
	トリクロロエチレン（mg/L）								0.01以下
	テトラクロロエチレン（mg/L）								0.01以下
	1,3-ジクロロプロペン（mg/L）								0.002以下
	チウラム（mg/L）								0.006以下
	シマジン（mg/L）								0.003以下
	チオベンカルブ（mg/L）								0.02以下
	ベンゼン（mg/L）								0.01以下
	セレン（mg/L）								0.01以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素（mg/L）	0.11	0.11	0.11	0/1	0/1	0.11	1/1	10以下
	ふっ素（mg/L）	0.72	0.72	0.72	0/1	0/1	0.72	1/1	0.8以下
	ほう素（mg/L）	1.8	1.8	1.8	1/1	1/1	1.8	1/1	1以下
	1,4-ジオキサン（mg/L）								0.05以下
	測定項目	平均	最小値	最大値	m/n	x/y	75%値	k/n	指針値
要監視項目	クロロホルム（mg/L）								0.06以下
	トランス-1,2-ジクロロエチレン（mg/L）								0.04以下
	1,2-ジクロロプロパン（mg/L）								0.06以下
	p-ジクロロベンゼン（mg/L）								0.2以下
	イソキサチオン（mg/L）								0.008以下
	ダイアジノン（mg/L）								0.005以下
	フェニトロチオン（mg/L）								0.003以下
	イソプロチオラン（mg/L）								0.04以下
	オキシン銅（mg/L）								0.04以下
	クロロタロニル（mg/L）								0.05以下
	プロピザミド（mg/L）								0.008以下
	EPN（mg/L）								0.006以下
	ジクロルボス（mg/L）								0.008以下
	フェノブカルブ（mg/L）								0.03以下
	イプロベンホス（mg/L）								0.008以下
	クロルニトロフェン（mg/L）								－
	トルエン（mg/L）								0.6以下
	キシレン（mg/L）								0.4以下
	フタル酸ジエチルヘキシル（mg/L）								0.06以下
	ニッケル（mg/L）								－
	モリブデン（mg/L）	<0.007	<0.007	<0.007	0/1	0/1	<0.007	0/1	0.07以下
	アンチモン（mg/L）								0.02以下
	塩化ビニルモノマー（mg/L）								0.002以下
	エピクロロヒドリン（mg/L）								0.0004以下
	全マンガン（mg/L）	0.036	0.036	0.036	0/1	0/1	0.036	1/1	0.2以下
	ウラン（mg/L）	0.0009	0.0009	0.0009	0/1	0/1	0.0009	1/1	0.002以下
	PFOS（mg/L）	0.000002	0.000002	0.000002	-/1	-/1	0.000002	1/1	-
	PFOS(直鎖体)（mg/L）	0.000001	0.000001	0.000001	-/1	-/1	0.000001	1/1	-
	PFOA（mg/L）	0.000004	0.000004	0.000004	-/1	-/1	0.000004	1/1	-
	PFOA(直鎖体)（mg/L）	0.000003	0.000003	0.000003	-/1	-/1	0.000003	1/1	-
	PFOS及びPFOAの合算値（mg/L）	0.000006	0.000006	0.000006	0/1	0/1	0.000006	1/1	0.00005(暫定)
	フェノール（水生生物保全）（mg/L）								－
	ホルムアルデヒド（水生生物保全）（mg/L）								－
	4-t-オクチルフェノール（水生生物保全）（mg/L）								－
	アニリン（水生生物保全）（mg/L）								－
	2,4-ジクロロフェノール（水生生物保全）（mg/L）								－
その他の項目	塩化物イオン（mg/L）	8600	2400	15000	-/12	-/12	11000	12/12	－
	硝酸性窒素(mg/L)	0.11	0.11	0.11	-/1	-/1	0.11	1/1	－
	亜硝酸性窒素(mg/L)	0.009	0.009	0.009	-/1	-/1	0.009	1/1	－
	電気伝導度(mS/m)	2500	800	4100	-/12	-/12	3200	12/12	－
	MBAS（mg/L）	0.20	0.12	0.26	-/4	-/4	0.22	4/4	－

注：　　環境基準超過

m/n　nは測定値の数。mは環境基準値または指針値超過の数。x/y　xは環境基準に適合しない（または指針値を超過した）日数。yは総測定日数。

k/n　nは測定値の数。kは測定データ中で値が検出されたもの（報告下限値以上）の数。

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局

表 3.1.2-3 (2/2) 水質測定結果（七寺川：上鯰川橋）

	測定項目	平均	最小値	最大値	m/n	x/y	75%値	k/n	環境基準
現場観測項目	気温(℃)	21.1	6.8	34.0	-/12	-/12	25.2	12/12	－
	水温(℃)	19.3	8.0	31.5	-/12	-/12	25.0	12/12	－
	透視度(cm)	95	60	100	-/12	-/12	100	12/12	－
生活環境項目	ｐＨ（－）	7.4	7.2	7.8	0/12	0/12	7.5	12/12	6.5～8.5
	ＤＯ（mg/L）	8.4	6.0	11	0/12	0/12	9.6	12/12	5以上
	ＢＯＤ（mg/L）	0.9	<0.5	2.8	0/12	0/12	0.7	10/12	5以下
	ＣＯＤ（mg/L）	3.9	1.8	7.4	-/12	-/12	4.4	12/12	－
	ＳＳ（mg/L）	3	<1	9	0/12	0/12	4	10/12	50以下
	大腸菌数(CFU/100mL)	390	44	1000	-/12	-/12	400	12/12	－
	全窒素(mg/L)	0.57	0.28	0.88	-/12	-/12	0.65	12/12	－
	全燐(mg/L)	0.047	0.021	0.087	-/12	-/12	0.054	12/12	－
	全亜鉛（水生生物保全）（mg/L）	0.009	0.005	0.016	-/4	-/4	0.007	4/4	－
	ノニルフェノール（水生生物保全）（mg/L）	<0.00006	<0.00006	<0.00006	-/4	-/4	<0.00006	0/4	－
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(水生生物保全)(mg/L)	0.0022	0.0008	0.0057	-/4	-/4	0.0012	4/4	－
健康項目	カドミウム								0.003以下
	全シアン								検出されないこと
	鉛								0.01以下
	六価クロム								0.05以下
	砒素								0.01以下
	総水銀								0.0005以下
	アルキル水銀								検出されないこと
	PCB								検出されないこと
	ジクロロメタン								0.02以下
	四塩化炭素								0.002以下
	1,2-ジクロロエタン								0.004以下
	1,1-ジクロロエチレン								0.1以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン								0.04以下
	1,1,1-トリクロロエタン								1以下
	1,1,2-トリクロロエタン								0.006以下
	トリクロロエチレン								0.01以下
	テトラクロロエチレン								0.01以下
	1,3-ジクロロプロペン								0.002以下
	チウラム								0.006以下
	シマジン								0.003以下
	チオベンカルブ								0.02以下
	ベンゼン								0.01以下
	セレン								0.01以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0.49	0.49	0.49	0/1	0/1	0.49	1/1	10以下
	ふっ素	<0.08	<0.08	<0.08	0/1	0/1	<0.08	0/1	0.8以下
	ほう素	0.01	0.01	0.01	0/1	0/1	0.01	1/1	1以下
	1,4-ジオキサン								0.05以下
	測定項目	平均	最小値	最大値	m/n	x/y	75%値	k/n	指針値
要監視項目	クロロホルム								0.06以下
	トランス-1,2-ジクロロエチレン								0.04以下
	1,2-ジクロロプロパン								0.06以下
	p-ジクロロベンゼン								0.2以下
	イソキサチオン								0.008以下
	ダイアジノン								0.005以下
	フェニトロチオン								0.003以下
	イソプロチオラン								0.04以下
	オキシン銅								0.04以下
	クロロタロニル								0.05以下
	プロピザミド								0.008以下
	EPN								0.006以下
	ジクロルボス								0.008以下
	フェノブカルブ								0.03以下
	イプロベンホス								0.008以下
	クロルニトロフェン								－
	トルエン								0.6以下
	キシレン								0.4以下
	フタル酸ジエチルヘキシル								0.06以下
	ニッケル								－
	モリブデン								0.07以下
	アンチモン								0.02以下
	塩化ビニルモノマー								0.002以下
	エピクロロヒドリン								0.0004以下
	全マンガン	0.016	0.016	0.016	0/1	0/1	0.016	1/1	0.2以下
	ウラン								0.002以下
	PFOS（mg/L）	<0.000001	<0.000001	<0.000001	-/1	-/1	<0.000001	0/1	-
	PFOS(直鎖体)（mg/L）	<0.000001	<0.000001	<0.000001	-/1	-/1	<0.000001	0/1	-
	PFOA（mg/L）	0.000001	0.000001	0.000001	-/1	-/1	0.000001	1/1	-
	PFOA(直鎖体)（mg/L）	0.000001	0.000001	0.000001	-/1	-/1	0.000001	1/1	-
	PFOS及びPFOAの合算値（mg/L）	0.000002	0.000002	0.000002	0/1	0/1	0.000002	1/1	0.00005(暫定)
	フェノール（水生生物保全）								－
	ホルムアルデヒド（水生生物保全）								－
	4-t-オクチルフェノール（水生生物保全）								－
	アニリン（水生生物保全）								－
	2,4-ジクロロフェノール（水生生物保全）								－
その他の項目	塩化物イオン（mg/L）	1300	34	10000	-/12	-/12	630	12/12	－
	硝酸性窒素(mg/L)	0.49	0.49	0.49	-/1	-/1	0.49	1/1	－
	亜硝酸性窒素(mg/L)	0.004	0.004	0.004	-/1	-/1	0.004	1/1	－
	電気伝導度(mS/m)	400	22	3000	-/12	-/12	180	12/12	－
	MBAS（mg/L）	0.06	<0.05	0.07	-/4	-/4	<0.05	1/4	－

注： m/n　nは測定値の数。mは環境基準値または指針値超過の数。x/y　xは環境基準に適合しない（または指針値を超過した）日数。yは総測定日数。
　　k/n　nは測定値の数。kは測定データ中で値が検出されたもの（報告下限値以上）の数。

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局

② ダイオキシン類

令和４年度におけるダイオキシン類の測定結果は、表 3.1.2-4 に示すとおりであり、十郎川（壱岐橋）、七寺川（上鯰川橋）ともに環境基準値を下回っていた(調査場所は図 3.1.2-1 参照)。

表 3.1.2-4　ダイオキシン類測定結果（河川水質）

区分	十郎川　壱岐橋	七寺川　上鯰川橋	環境基準
ダイオキシン類　(pg-TEQ/L)	0.070	0.084	1以下

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局

(2) 地下水の水質

対象事業実施区域周辺では、令和４年度に表 3.1.2-5 に示す継続監視調査、表 3.1.2-6 に示す概況調査が実施されている。

これより、継続監視調査において、今宿駅前でトリクロロエチレンが環境基準値を上回っていた。また、概況調査では、４地点ともに、すべての項目で環境基準値を下回っていた。

表 3.1.2-5　継続監視調査結果

区分		No.	17	18	23	24
		環境基準 mg/L以下	今宿駅前	今宿東	下山門①	下山門②
水　温	(℃)	－	19.3	19.2	19.3	19.1
ｐＨ	－	－	7.3	6.4	6.7	6.6
電気伝導度	(mS/m)	－	85	30	28	29
六価クロム	(mg/L)	0.05	－	－	－	－
四塩化炭素		0.002	－	－	－	－
クロロエチレン		0.002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ		0.1	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001
1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ		0.04	0.0074	0.0002	<0.0002	<0.0002
1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ		1	<0.0005	<0.0005	－	－
トリクロロエチレン		0.01	0.013	<0.001	<0.001	<0.001
テトラクロロエチレン		0.01	<0.0005	<0.0005	0.0055	0.0036

注：　　環境基準超過

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局

表 3.1.2-6　概況調査結果

区分		単位	年度		R4年度			
			環境基準 mg/L以下	定量下限	西区 生の松原	西区 吉武	西区 今宿上ノ原	西区 宮浦
環境基準項目	カドミウム	(mg/L)	0.003	0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
	全シアン		検出されないこと	0.01	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず
	鉛		0.01	0.001	0.001	<0.001	0.003	<0.001
	六価クロム		0.02	0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
	砒素		0.01	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	総水銀		0.0005	0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	アルキル水銀		検出されないこと	0.0005	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず
	ＰＣＢ		検出されないこと	0.0003	検出されず	検出されず	検出されず	検出されず
	ジクロロメタン		0.02	0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
	四塩化炭素		0.002	0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
	クロロエチレン		0.002	0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
	1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ		0.004	0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001
	1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ		0.1	0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001
	1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ		0.04	0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
	1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ		1	0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ		0.006	0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001
	トリクロロエチレン		0.01	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	テトラクロロエチレン		0.01	0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ		0.002	0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002
	チウラム		0.006	0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006
	シマジン		0.003	0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001
	チオベンカルブ		0.02	0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001
	ベンゼン		0.01	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	セレン		0.01	0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素		10	0.024	2.2	1.1	1.4	0.93
	ふっ素		0.8	0.1	<0.1	<0.1	<0.1	0.1
	ほう素		1	0.02	0.03	<0.02	<0.02	<0.02
	1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ		0.05	0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
その他	水　温	(℃)	－	－	21.6	22.7	23.8	18.1
	ｐＨ	－	－	－	6.6	6.6	5.7	6.7
	電気伝導度	(mS/m)	－	－	18	18	10	23

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局

3) 水底の底質

(1) 河川の底質

令和４年度における底質の測定結果は、表 3.1.2-7 に示すとおりである。

底質の暫定除去基準が定められている総水銀、ＰＣＢは、十郎川（壱岐橋）、七寺川（上鯰川橋）ともに基準値を下回っていた(調査場所は図 3.1.2-1 参照)。

表 3.1.2-7　底質測定結果

調査項目		十郎川 壱岐橋	七寺川 上鯰川橋	底質の暫定 除去基準
pH		7.7	7.0	－
COD	(mg/g)	3.0	0.8	－
乾燥減量	(%)	20	20	－
強熱減量	(%)	1.5	0.6	－
硫化物	(mg/kg)	71	<1	－
有機炭素	(mg/g)	3.4	0.5	－
全窒素	(mg/kg)	380	270	－
全りん	(mg/kg)	200	80	－
カドミウム	(mg/kg)	0.06	<0.05	－
シアン	(mg/kg)	<1	<1	－
有機りん	(mg/kg)	<1	<1	－
鉛	(mg/kg)	4.5	1.7	－
総クロム	(mg/kg)	15	5	－
六価クロム	(mg/kg)	<2	<2	－
ひ素	(mg/kg)	2.0	0.7	－
総水銀	(mg/kg)	0.02	<0.01	25
アルキル水銀	(mg/kg)	<0.01	<0.01	－
PCB	(mg/kg)	<0.01	<0.01	10
ノニルフェノール	(μg/kg)	33	<10	－
4-t-オクチルフェノール	(μg/kg)	<1.0	<1.0	－

注：ｐＨ、乾燥減量、強熱減量以外は乾燥固形物当りの濃度

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局

(2)　ダイオキシン類

令和４年度におけるダイオキシン類の測定結果は、表 3.1.2-8 に示すとおりであり、十郎川（壱岐橋）、七寺川（上鯰川橋）ともに環境基準値を下回っていた(調査場所は図 3.1.2-1 参照)。

表 3.1.2-8　ダイオキシン類測定結果（河川底質）

区分	十郎川　壱岐橋	七寺川　上鯰川橋	環境基準
ダイオキシン類　(pg-TEQ/g)	1.4	0.69	150

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和4年度(2022年度)版　福岡市環境局

1.3　土壌及び地盤の状況

1)　土壌

(1)　土壌の状況

「土地分類基本調査」による周辺の土壌図を図 3.1.3-1 に示す。

対象事業実施区域周辺は、乾性褐色森林土、褐色森林土（黄褐系）及び市街地その他が混在して分布する地域となっている。

(2)　土壌汚染の状況

①　ダイオキシン類

西区内では、令和元年度に土壌中ダイオキシン類調査が実施されており、表 3.1.3-1 に示すとおり環境基準値を下回っていた。

表 3.1.3-1　土壌のダイオキシン類測定結果

区分	地点	測定結果	環境基準
ダイオキシン類(pg-TEQ/g)	西区小戸東公園 (西区小戸1-35-11)	0.0069	1,000

出典：「福岡市水質測定結果報告書」令和元年度(2019年度)版　福岡市環境局

②　土壌汚染対策法に基づく指定

西区内では、土壌汚染対策法に基づいて、1 箇所が要措置区域、４箇所が形質変更時要届出区域に指定されたが、３箇所が全部解除され、令和 5 年 12 月現在は、２箇所が形質変更時要届出区域に指定されている（表 3.1.3-2 参照）。

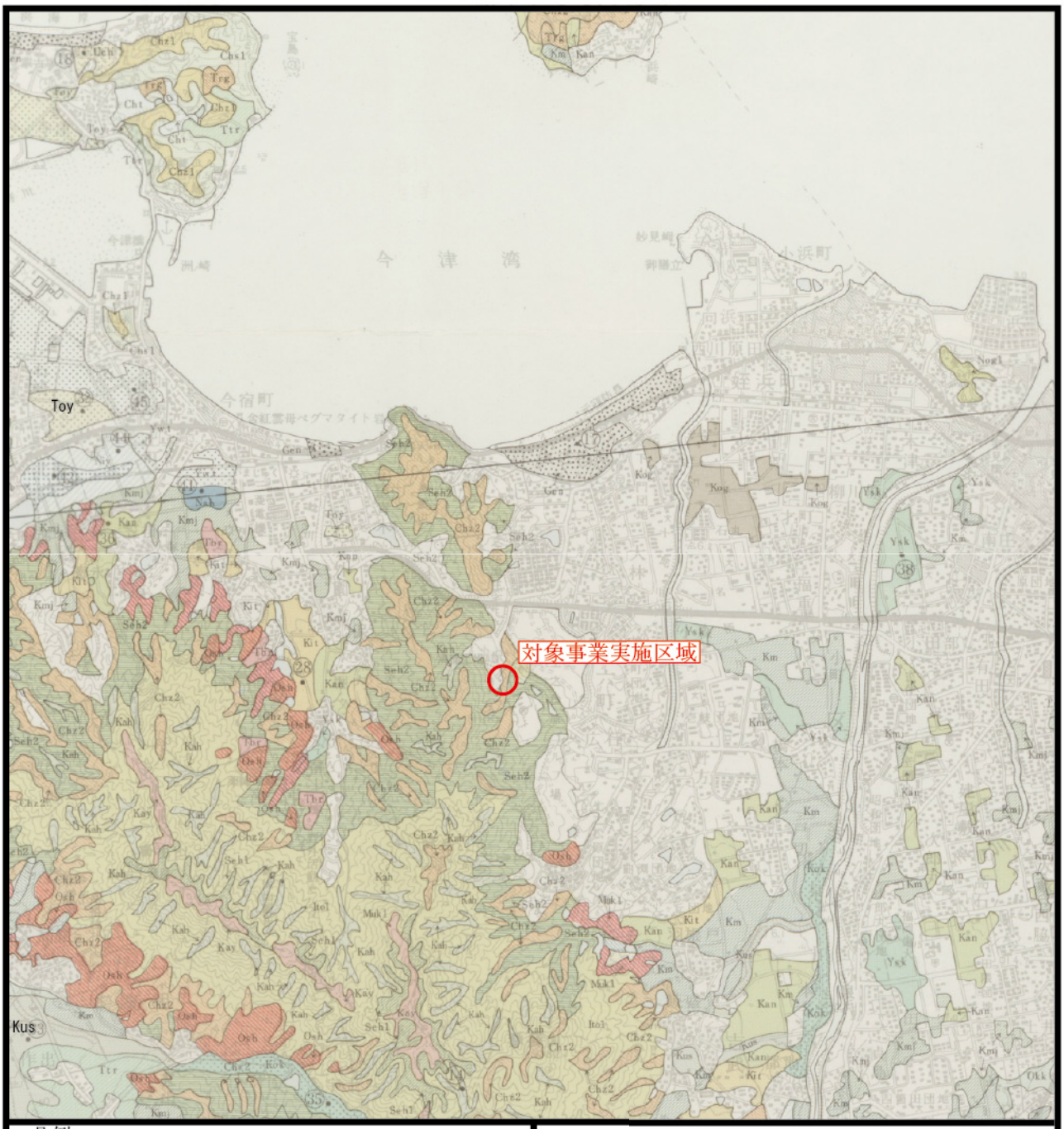
表 3.1.3-2　土壌汚染対策法に基づく形質変更時要届出区域等

整理番号	指定・解除年月日	指定番号	区域の種類	要措置区域等の所在地	区域の面積	基準に適合していなかった特定有害物質の種類
整-17-1	平成17年7月21日 平成18年1月26日 (全部解除)	形-2号	形質変更時要届出区域	西区下山門4丁目830番,831番,832番,833番2及び838番1の各一部並びに838番3	993.79m^2 →0m^2	ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ
整-24-2	平成24年9月24日 平成25年4月8日 (全部解除)	形-7号	形質変更時要届出区域	西区今宿東1丁目664番,665番,666番及び676番の各一部	1013m^2 →0m^2	ふっ素及びその化合物 鉛及びその化合物
整-2-3	令和3年2月15日	形-31号	形質変更時要届出区域	西区今宿東1丁目685番の一部	100m^2	鉛及びその化合物
整-4-4	令和4年12月8日 令和5年6月29日 (全部解除)	要-15号	要措置区域	西区大字桑原153番2の一部	173.5m^2 →0m^2	ふっ素及びその化合物
整-5-6	令和5年8月14日	形-44号	形質変更時要届出区域	西区今宿東一丁目170番7、170番8、668番2、672番2、677番、678番、679番3の各一部	60.04m^2	鉛及びその化合物

出典：「要措置区域及び形質変更時要届出区域（以下要措置区域等）の指定状況」福岡市ホームページ

2)　地盤

対象事業実施区域周辺において地盤沈下発生の報告はない。また、福岡市内に地下水の揚水が規制される地域はない。



凡例

○ ：対象事業実施区域

-・-・- ：市区境界

山地及び丘陵地の土壌

乾性褐色森林土（赤色系）

Muk 1　宗像1統(MuK 1)

乾性褐色森林土

Kay　金山1統(Kny)

Chz 1　筑前1統(Chz 1)

Chz 2　筑前2統(Chz 2)

褐色森林土（黄褐系）

Seh 2　脊振2統(Seh 2)

Ito 1　糸島1統(Ito 1)

Chs 1　筑紫1統(Chs 1)

Nog 1　直方1統(Nog 1)

褐色森林土

Kah　嘉穂統(Kah)

台地及び低地の土壌

砂丘未熟土壌

玄海統(Gen)

Uch　内灘統(Uch)

細粒赤色土壌

Tbr　唐原統(Tbr)

細粒黄色土壌

Trg　鶴木山統(Trg)

中粗粒黄色土壌

Osh　大代統(Osh)

細粒黄色土壌（斑紋あり）

Kit　北多久統(Kit)

細粒灰色低地土壌（灰色系）

Kmj　鴨島統(Kmj)

中粗粒灰色低地土壌（灰色系）

Km　加茂統(Km)

Toy　豊中統(Toy)

礫質灰色低地土壌

Kus　久世田統(Kus)

Okk　追子野木統(Okk)

Kok　国領統(Kok)

細粒灰色低地土壌（灰褐系）

Kan　金田統(Kan)

Ttr　多々良統(Ttr)

中粗粒灰色低地土壌（灰褐系）

Ysk　安来統(Ysk)

細粒強グライ土壌

Nsh　西山統(Nsh)

中粗粒強グライ土壌

Shb　芝井統(Shb)

細粒グライ土壌

Cht　千年統(Cht)

中粗粒グライ土壌

Niy　新山統(Niy)

Ywt　八幡統(Ywt)

造成低地土壌

Kog　鉱害復旧田(Kog)

市街地その他

出典：「土地分類調査図（土じょう図　福岡）」（昭和59年　福岡県）

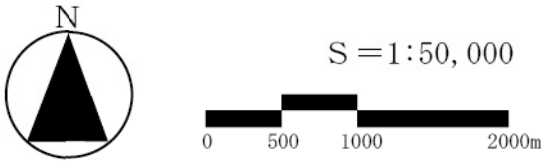


図3.1.3-1　対象事業実施区域周辺における土壌図

1.4　地形・地質の状況

1)　地形の状況

対象事業実施区域及びその周辺における地形の状況は、図 3.1.4-1 に示すとおりである。

対象事業実施区域周辺の地形は、対象事業実施区域の南部から西部にかけては、高祖山や叶岳からなる山地や山麓地、砂礫台地が広がり、東部は、砂礫台地、扇状地や人工改変地などから構成されており、室見川が流れている。また、北部は三角州や海浜砂丘、砂浜といった低地や人工改変地などから構成され、その先には博多湾が広がっている。対象事業実施区域は小起伏山地又は人工改変地（宅地砕石）となっている。

なお、対象事業実施区域内には、学術上又は希少性の観点から重要な地形はない。

2)　地質の状況

対象事業実施区域及びその周辺における地質の状況は、図 3.1.4-2 に示すとおりである。

対象事業実施区域周辺の地質は、対象事業実施区域の南部から西部にかけて位置する高祖山や叶岳といった山地を構成する深成岩類とその周辺に分布する未固結堆積物の砂・泥・礫などから構成されている。また、対象事業実施区域の北西約 2.2km の位置には、長垂の含紅雲母ペグマタイト岩脈（国指定の天然記念物）が存在する。

対象事業実施区域は深成岩類（黒雲母花崗岩）となっており、白亜紀に形成されたものである。

なお、対象事業実施区域内には、学術上又は希少性の観点から重要な地質はない。

一方、現有施設（西部資源化センター）建設時における地質調査により得られた掘削壁面地質想定展開図を図 3.1.4-3 に示す。また、地層構成について、現有施設（西部資源化センター）の建設以前は、沢地形であったと推定され、No.A3 での盛土厚は 10m 以上に及ぶ。盛土下位は沢地形に特有の崖錐性堆積物が薄く分布し、花崗岩は最も深くて標高+50.5m で出現する。

凡例

○ ：対象事業実施区域

-・-・- ：市区境界

山地
- 中起伏山地(Mm)（起伏量200～400m）
- 小起伏山地(Ms)（起伏量200m以下）

山麓地
- 山麓地(Pdt)（起伏量100m以下）

丘陵地
- 丘陵地Ⅱ(Hs)（起伏量100m以下）

台地
- 砂礫台地Ⅰ(Gt1)（中位～高位段丘）
- 砂礫台地Ⅱ(Gt2)（低位段丘）
- 砂礫台地Ⅲ(Gt3)（低位段丘）

低地
- 土石流堆積面(Ef)

低地
- 谷底平野(Vp)
- 平野（扇状地）(P)
- 平野（三角州）(Pd)
- 自然堤防(N)
- 湿地、旧河道、河道(M)
- 海浜砂丘、砂浜(Sd)

その他
- 人工改変地（宅地砕石）(Ⅰ)
- 人工改変地（ゴルフ場、緑地）(Ⅱ)
- 埋立地
- 崖面
- 国道（主要地方道）

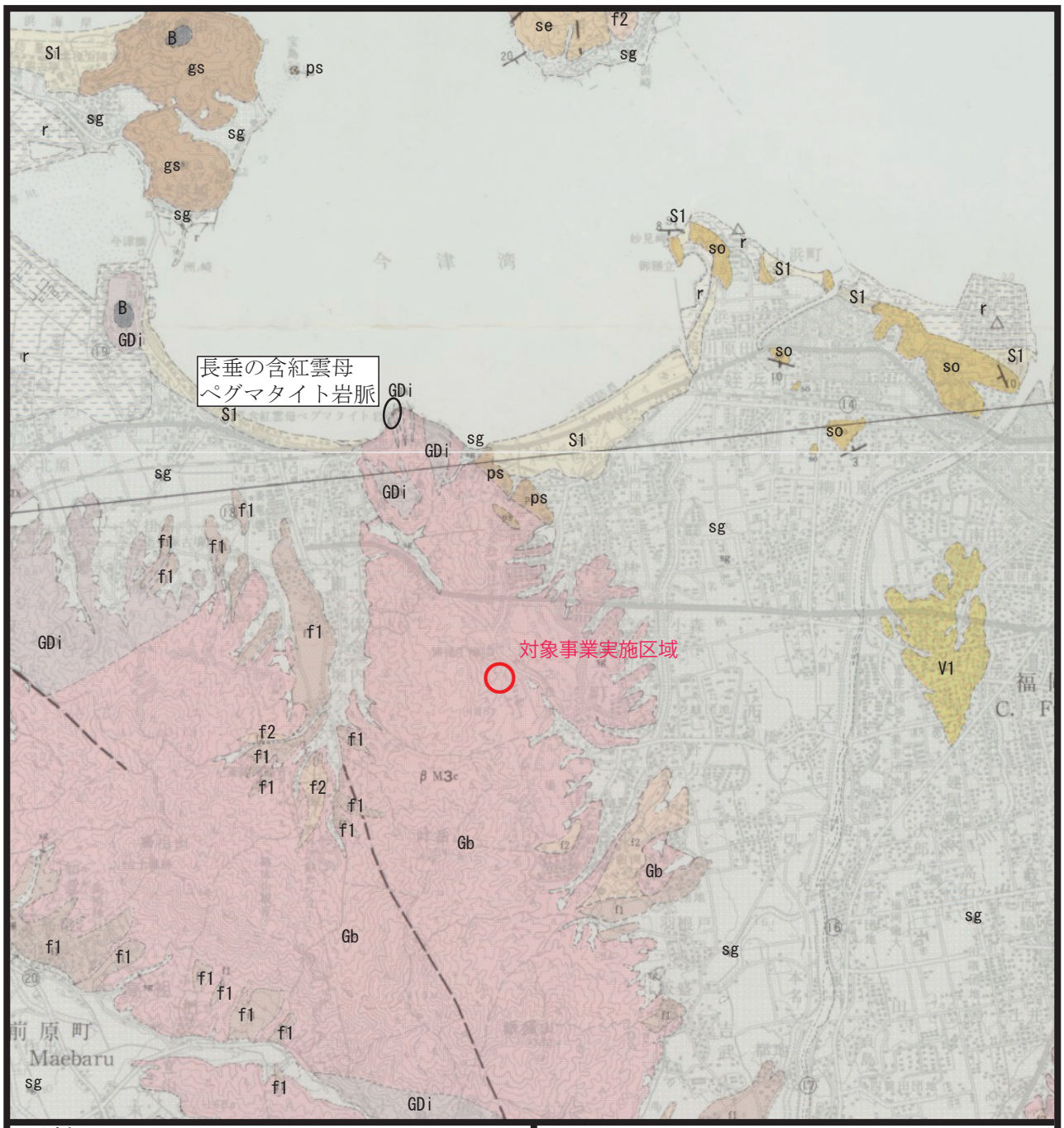
出典：「土地分類調査図（地形分類図　福岡）」（昭和59年　福岡県）

N

S＝1:50,000

0　500　1000　2000m

図3.1.4-1　対象事業実施区域周辺における地形分類図



凡例

○ ：対象事業実施区域

-・-・- ：市区境界

未固結堆積物

- r 人工埋積地（埋立地・主要ボタ山）（沖積世）
- sg 砂・泥・礫（沖積層）（沖積世）
- S1 砂（海浜砂層・砂丘砂層）（沖積世）
- f1 砂礫・砕屑物（新期扇状地及山麓堆積物）（沖積世）
- f2 砕屑物・砂礫（古期扇状地及山麓堆積物）（洪積世）
- V1 火山灰（含粘土、中位段丘面構成層2）（洪積世）

火山性岩石

- B 玄武岩及同質凝灰角礫岩・集塊岩（鮮新世）

固結堆積物

- so 主として砂岩（含礫岩・シルト岩・姪浜層群）（漸新世）
- se 砂岩・シルト岩（含礫岩・凝灰質シルト岩・石炭、福岡・粕屋・早良・志免層群）（始新世～漸新世）

深成岩類（白亜紀）

- Gb 黒雲母花崗岩（早良型・佐賀型）（両雲母花崗岩を含む）
- GDi 含輝石・角閃石・黒雲母花崗閃緑岩（糸島型）

変成岩類（三郡変成岩類）

- ps 砂質片岩
- gs 緑色片岩

△ 主要ボタ山　10 走向・傾斜

地層境界　断層

出典：「土地分類調査図（表層地質図　福岡）」（昭和59年　福岡県）

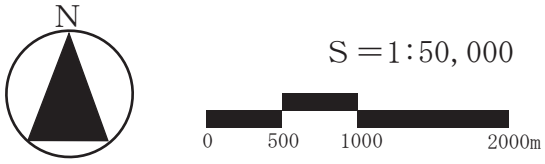
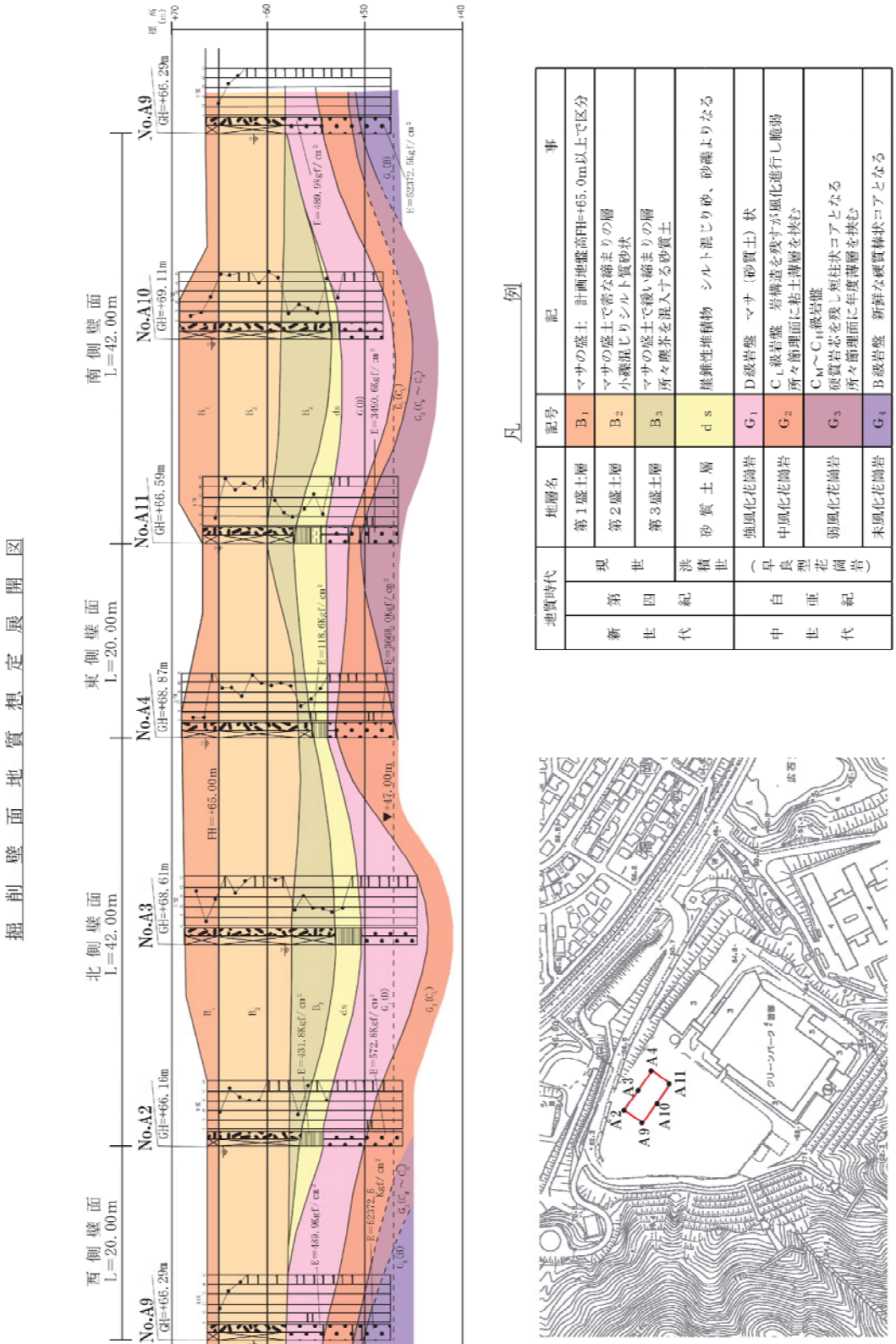


図3.1.4-2　対象事業実施区域周辺における表層地質図



出典：「新西部清掃工場敷地内地質調査委託（調査編） 平成３年10月、福岡市環境局」

図 3.1.4-3 掘削壁面地質想定展開図

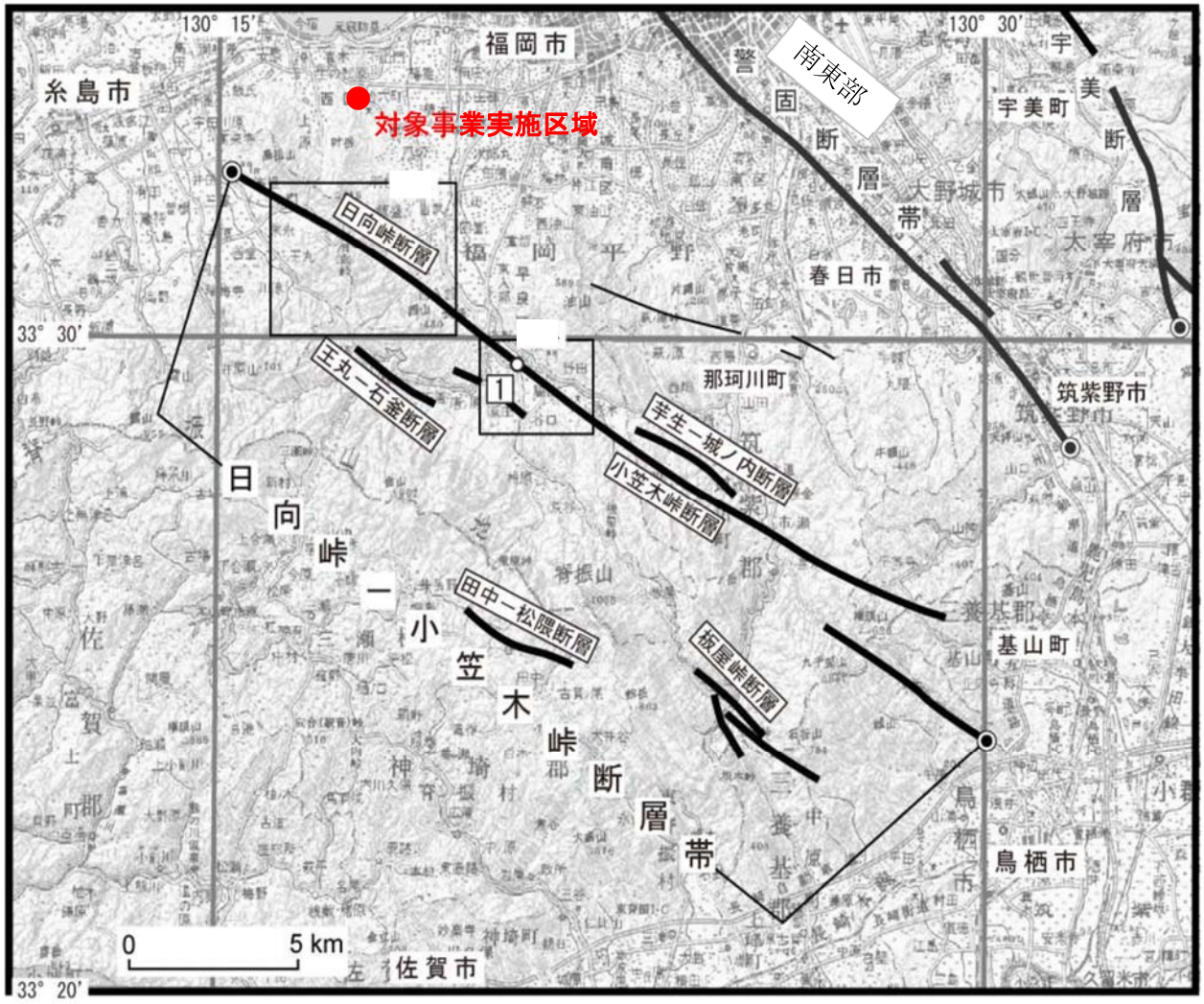
3) 活断層等の状況

対象事業実施区域周辺に存在する活断層として、日向峠－小笠木峠断層帯及び警固断層帯があげられる。各活断層の概要は表 3.1.4-1 に、その位置は図 3.1.4-4 に示すとおりである。

表 3.1.4-1　活断層の概要

断層帯名	概　要	将来の地震発生の可能性	対象事業実施区域からの距離
日向峠－小笠木峠断層帯	福岡県糸島市大門から佐賀県鳥栖市神辺町にかけて分布する、地表で確認される長さが約 28km、北西－南東走向で一部に南西側隆起成分を伴う左横ずれ断層である。	地震の規模：M7.2 程度 地震発生確率：不明 平均活動間隔：不明 最新活動時期：不明	断層帯まで約 3km
警固断層帯	警固断層帯は、福岡市東区志賀島北西沖の玄界灘から博多湾、同市中央区、同市南区、春日市、大野城市、太宰府市を経て、筑紫野市に至る断層帯である。断層帯の長さは 55km 程度で、概ね北西－南東方向に延びる。警固断層帯は、過去の活動時期の違いから、玄界灘から志賀島付近にかけての 2005 年の福岡県西方沖の地震の震源域にあたる北西部と、志賀島南方沖の博多湾から筑紫野市の警固断層にあたる南東部に区分される。警固断層帯は、断層帯北西部、断層帯南東部ともに左横ずれを主体とし、断層帯南東部では南西側隆起成分の縦ずれを伴う。	北西部 地震の規模：M7.0 程度 地震発生確率：不明 平均活動間隔：不明 最新活動時期：2005 年福岡県西方沖の地震 南東部 地震の規模：M7.2 程度 地震発生確率：30 年以内に 0.3%～6% 地震後経過率：0.6-1.4 平均活動間隔：約 3,100 年-5,500 年 最新活動時期：約 4,300 年前-3,400 年前	断層帯まで約 8km

出典：「日向峠-小笠木峠断層帯の長期評価」（平成 25 年 2 月 1 日、地震調査研究推進本部 地震調査委員会）
「警固断層帯の長期評価について」（平成 19 年 3 月 19 日、地震調査研究推進本部 地震調査委員会）



出典：「日向峠-小笠木峠断層帯の長期評価」（平成 25 年 2 月 1 日、地震調査研究推進本部 地震調査委員会）

図 3.1.4-4　活断層の位置

1.5　動物、植物、生態系の状況

1)　動物の生息状況

「福岡市環境配慮指針（改定版）」（令和５年１２月現在，福岡市環境局ホームページ）において示されている福岡市内の貴重・希少生物等のリスト、自然環境情報地図（貴重・希少生物等確認地図）より対象事業実施区域周辺における貴重・希少動物の生息状況を以下に示す。

(1)　哺乳類・両生類

「自然環境情報地図【西区①】貴重・希少生物等確認地図　哺乳類・爬虫類・両生類」では、東西約 1.1km、南北約 0.9km のメッシュごとに貴重・希少生物の生息状況が整理されている。

哺乳類・両生類について、対象事業実施区域を含むメッシュ及びその周辺の８メッシュに貴重・希少な哺乳類・両生類の生息情報はなかった。

(2)　爬虫類

「自然環境情報地図【西区①】貴重・希少生物等確認地図　哺乳類・爬虫類・両生類」によると、対象事業実施区域の西側のメッシュにおいて、ニホンイシガメの生息が報告されている（表 3.1.5-1 参照）。

表 3.1.5-1　貴重・希少な動物種の状況（爬虫類）

種名	カテゴリー			出典							
	福岡県RDB	環境省RL	その他指定状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
ニホンイシガメ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧（NT）		○		○	○	○	○	○	○

注）カテゴリー
福岡県RDB：福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック2014
―爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等―（平成26年8月）
環境省RL：環境省レッドリスト2020（令和2年3月）
その他の指定状況：天然記念物・種の保存法・福岡県希少野生動植物種の保護に関する条例等の指定状況、専門家の指摘

出典
① 福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック2014
―爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等―（平成26年8月）
② 福岡市環境配慮指針（平成9年3月）
③ 自然環境調査委託　ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況等調査（平成13年3月）
④ 平成19年度自然環境調査（ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況）委託（平成20年3月）
⑤ 平成19年度自然環境調査（外来生物の生息状況調査）委託（平成20年3月）
⑥ 平成24年度自然環境調査（ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況）委託（平成25年3月）
⑦ 九州大学統合移転事業環境監視調査　平成26年度　総合報告書（平成27年9月）
⑧ 平成29年度自然環境調査（ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況）委託（平成30年3月）

出典：「福岡市環境配慮指針（改定版）」（福岡市環境局）

(3) 鳥類

「自然環境情報地図【西区②】貴重・希少生物等確認地図　鳥類」では、東西約 2.2km、南北約 1.8km のメッシュごとに貴重・希少生物の生息状況が整理されている。

対象事業実施区域を含むメッシュ及びその北、北東、東側のメッシュには表 3.1.5-2 に示す貴重・希少な鳥類の生息が報告されている。

表 3.1.5-2　貴重・希少な動物種の状況（鳥類）

種名	カテゴリー			出典																
	福岡県RDB	環境省RL	その他指定状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
アオバズク	絶滅危惧Ⅱ類			○		○		○				○			○	○		○	○	○
アオバト			専門家の指摘*1			○	○	○			○		○		○	○	○		○	○
アマサギ	準絶滅危惧			○				○	○			○	○		○	○	○		○	○
イカルチドリ	絶滅危惧Ⅱ類			○		○		○					○		○	○	○		○	○
オオヨシキリ	準絶滅危惧			○				○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
オシドリ	準絶滅危惧	情報不足（DD）		○		○		○	○			○			○	○	○	○	○	○
カンムリカイツブリ	準絶滅危惧			○	○	○		○		○			○		○	○	○		○	○
キビタキ			専門家の指摘*2			○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○
クロサギ	準絶滅危惧			○				○					○		○	○	○		○	○
コアジサシ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	県指定希少野生動植物	○		○		○					○	○	○	○	○		○	○
コサメビタキ	情報不足						○	○					○		○	○	○	○	○	○
コシアカツバメ	準絶滅危惧						○	○				○	○		○	○	○	○	○	○
コルリ	絶滅危惧ⅠB類			○			○	○				○			○	○			○	○
サンコウチョウ	絶滅危惧Ⅱ類			○		○		○							○	○			○	○
センダイムシクイ	絶滅危惧Ⅱ類			○			○	○							○	○	○		○	○
チュウサギ	準絶滅危惧	準絶滅危惧（NT）		○		○		○	○			○	○		○	○	○	○	○	○
ツリスガラ	準絶滅危惧					○		○					○		○	○	○	○	○	○
ノスリ	準絶滅危惧						○	○					○		○	○	○	○	○	○
ハイタカ		準絶滅危惧（NT）				○	○	○					○		○	○	○	○	○	○
ハチクマ	準絶滅危惧	準絶滅危惧（NT）		○		○	○	○					○		○	○	○	○	○	○
ハマシギ	準絶滅危惧	準絶滅危惧（NT）		○				○		○			○	○	○	○	○		○	○
ヒクイナ	準絶滅危惧	準絶滅危惧（NT）		○				○		○			○		○	○	○		○	
フクロウ			専門家の指摘*2			○	○	○				○	○		○	○			○	○
ミサゴ		準絶滅危惧（NT）				○		○		○		○	○		○	○	○	○	○	○
ヤイロチョウ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類（EN）	国内希少野生動植物種	○		○	○					○			○	○			○	○
ヤマドリ	絶滅危惧Ⅱ類			○		○	○	○							○	○			○	○

注）カテゴリー
福岡県RDB：福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック2011　―植物群落・植物・哺乳類・鳥類―（平成23年11月）
環境省RL：環境省レッドリスト2020（令和2年3月）
その他の指定状況：天然記念物・種の保存法・福岡県希少野生動植物種の保護に関する条例等の指定状況、専門家の指摘

*1　福岡市では確認されることが少なくなった種
*2　身近な減少種

出典
① 福岡県RDB：福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック2011　―植物群落・植物・哺乳類・鳥類―（平成23年11月）
② 自然環境調査委託（今津干潟における貴重鳥類調査）（平成9年3月）
③ 福岡市環境配慮指針（平成9年3月）
④ 自然環境調査委託　脊降山地における貴重種動物の生息状況調査（平成10年3月）
⑤ 自然環境調査委託　市域における鳥類の生息状況等調査（平成11年3月）
⑥ 地域生態系等調査（東平尾・金隈地域）（平成13年3月）
⑦ 平成12年度鳥類生息状況解析基礎調査委託業務（平成13年3月）
⑧ 地域生態系等詳細調査（東平尾・金隈地域）（平成14年3月）
⑨ 市域生態系調査業務委託（平成14～15年度）
⑩ 平成15年度今津干潟保全対策調査委託（平成16年3月）
⑪ 環境手帳　宇美川と多々良川の合流部にすむ生き物（平成17年3月）
⑫ 平成17年度自然環境調査（鳥類）委託（平成18年3月）
⑬ 平成22年度自然環境調査（鳥類、昆虫類及び貴重植物）委託（平成23年3月）
⑭ アイランドシティ環境モニタリング業務委託（平成5～27年度）
⑮ 九州大学統合移転事業環境監視調査　平成26年度　総合報告書（平成27年9月）
⑯ 平成27年度自然環境調査（鳥類）委託（平成28年3月）
⑰ 令和2年度自然環境調査（鳥類）委託（令和3年3月）

出典：「福岡市環境配慮指針（改定版）」（福岡市環境局）

(4) 昆虫類

「自然環境情報地図【西区③】貴重・希少生物等確認地図　昆虫類」では、東西約 1.1km、南北約 0.9km のメッシュごとに貴重・希少生物の生息状況が整理されている。

昆虫類について、対象事業実施区域を含むメッシュ及びその周辺の８メッシュについてみると、対象事業実施区域を含むメッシュの西、南西のメッシュにハルゼミ、北のメッシュにベニイトトンボの生息が報告されている（表 3.1.5-3 参照）。

表 3.1.5-3　貴重・希少な動物種の状況（昆虫類）

種名	カテゴリー			出典																
	福岡県RDB	環境省RL	その他指定状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
ハルゼミ	準絶滅危惧					○									○				○	
ベニイトトンボ		準絶滅危惧（NT）				○			○	○		○	○	○					○	

注）カテゴリー
福岡県RDB：福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック2014
―爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等―（平成26年8月）
環境省RL：環境省レッドリスト2020（令和2年3月）
その他の指定状況：天然記念物・種の保存法・福岡県希少野生動植物種の保護に関する条例等の指定状況、専門家の指摘

出典
① 福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック2014
―爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等―（平成26年8月）
② 専門家からのヒアリング情報
③ 福岡市環境配慮指針（平成9年3月）
④ 平成9年度自然環境調査（福岡市域における昆虫の生息状況調査）（平成9年）
⑤ 平成11年度自然環境調査（ため池の貴重種生物の生息状況調査）（平成12年3月）
⑥ 平成13年度自然環境調査（ため池の生態系調査）（平成14年3月）
⑦ 市域生態系調査業務委託（平成14～15年度）
⑧ 平成14年度鉄軌道導入環境調査委託（平成15年3月）
⑨ 平成16年度自然環境調査（昆虫）委託（平成17年3月）
⑩ 平成19年度自然環境調査（外来生物の生息状況調査）委託（平成20年3月）
⑪ 平成21年度自然環境調査（昆虫類及び貴重植物）委託（平成22年3月）
⑫ 平成22年度自然環境調査（鳥類、昆虫類及び貴重植物）委託（平成23年3月）
⑬ 九州大学統合移転事業環境監視調査　平成26年度　総合報告書（平成27年9月）
⑭ 平成26年度自然環境調査（昆虫類）委託（平成27年3月）
⑮ 平成28年度自然環境調査（水生生物）委託（平成29年3月）
⑯ 平成31年度自然環境調査（昆虫類）委託（令和2年3月）
⑰ 令和3年度自然環境調査（水生生物）委託（令和4年3月）

出典：「福岡市環境配慮指針（改定版）」（福岡市環境局）

(5) 魚類

「自然環境情報地図【西区④】貴重・希少生物等確認地図　魚類・貝類・甲殻類その他」では、東西約 1.1km、南北約 0.9km のメッシュごとに貴重・希少生物の生息状況が整理されている。

魚類について、対象事業実施区域を含むメッシュ及びその周辺の８メッシュについてみると、対象事業実施区域を含むメッシュの東、南東のメッシュにメダカ（ミナミメダカ）の生息が報告されている（表 3.1.5-4 参照）。

表 3.1.5-4　貴重・希少な動物種の状況（魚類）

種名	カテゴリー			出典											
	福岡県RDB	環境省RL	その他指定状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
メダカ（ミナミメダカ）	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類（VU）		○		○	○		○	○	○		○	○	○
				⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	
				○			○	○		○		○	○	○	

注）カテゴリー
福岡県RDB：福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック2014
―爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等―（平成26年8月）
環境省RL：環境省レッドリスト2020（令和2年3月）
その他の指定状況：天然記念物・種の保存法・福岡県希少野生動植物種の保護に関する条例等の指定状況、専門家の指摘

出典
① 福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック2014
―爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等―（平成26年8月）
② 専門家からのヒアリング情報
③ 福岡市環境配慮指針（平成9年3月）
④ 自然環境調査（室見川における貴重種魚類の生息状況調査）（平成11年3月）
⑤ 平成11年度自然環境調査（ため池の貴重種生物の生息状況調査）（平成12年3月）
⑥ 自然環境調査（河川おける水生生物の生息状況調査）（平成12年3月）
⑦ 自然環境調査（里地の細流等における貴重種魚類の生息状況調査）（平成13年3月）
⑧ 平成13年度自然環境調査（ため池の生態系調査）（平成14年3月）
⑨ 平成15年度今津干潟保全対策調査委託（平成16年3月）
⑩ 環境手帳　宇美川と多々良川の合流部にすむ生き物（平成17年3月）
⑪ 平成17年度自然環境調査（里地の貴重種魚類の生息状況調査）委託（平成18年3月）
⑫ 平成18年度自然環境調査（水生生物）委託（平成19年3月）
⑬ 平成19年度自然環境調査（外来生物の生息状況調査）委託（平成20年3月）
⑭ 平成19年度アイランドシティ環境モニタリング等調査委託（平成20年3月）
⑮ 平成19年度エコパークゾーン環境マップ作成業務委託（平成20年3月）
⑯ 平成22年度自然環境調査（里地の貴重種魚類の生息状況調査）委託（平成23年3月）
⑰ 平成23年度自然環境調査（水生生物）委託（平成24年3月）
⑱ アイランドシティ環境モニタリング業務委託（平成5～26年度）
⑲ 九州大学統合移転事業環境監視調査　平成26年度　総合報告書（平成27年9月）
⑳ 平成26年度新西部水処理センター環境モニタリング調査業務委託（平成27年3月）
㉑ 平成27年度多々良川水系感潮域環境調査業務委託（平成28年3月）
㉒ 平成28年度自然環境調査（水生生物）委託（平成29年3月）
㉓ 令和3年度自然環境調査（水生生物）委託（令和4年3月）

出典：「福岡市環境配慮指針（改定版）」（福岡市環境局）

(6) 貝類

「自然環境情報地図【西区④】貴重・希少生物等確認地図　魚類・貝類・甲殻類その他」では、東西約 1.1km、南北約 0.9km のメッシュごとに貴重・希少生物の生息状況が整理されている。

貝類について、対象事業実施区域を含むメッシュ及びその周辺の８メッシュについてみると、対象事業実施区域を含むメッシュの北のメッシュにオオタニシの生息が報告されている（表 3.1.5-5 参照）。

表 3.1.5-5　貴重・希少な動物種の状況（貝類）

種名	カテゴリー			出典															
	福岡県RDB	環境省RL	その他指定状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
オオタニシ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧（NT）		○							○						○		

注）カテゴリー
福岡県RDB：福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック2014
―爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等―（平成26年8月）
環境省RL：環境省レッドリスト2020（令和2年3月）
その他の指定状況：天然記念物・種の保存法・福岡県希少野生動植物種の保護に関する条例等の指定状況、専門家の指摘

出典
① 福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック2014
―爬虫類／両生類／魚類／昆虫類／貝類／甲殻類その他／クモ形類等―（平成26年8月）
② 干潟学入門　和白干潟の生きものたち（平成6年9月）
③ 自然環境保全基礎調査浅海域生態系調査（干潟）（平成14年度）
④ 福岡市環境配慮指針（平成9年3月）
⑤ 平成12年度鳥類生息状況解析基礎調査委託業務（平成13年3月）
⑥ 平成15年度今津干潟保全対策調査委託（平成16年3月）
⑦ 環境手帳　宇美川と多々良川の合流部にすむ生き物（平成17年3月）
⑧ 平成19年度自然環境調査（外来生物の生息状況調査）委託（平成20年3月）
⑨ 平成19年度アイランドシティ環境モニタリング等調査委託（平成20年3月）
⑩ 平成19年度エコパークゾーン環境マップ作成業務委託（平成20年3月）
⑪ アイランドシティ環境モニタリング業務委託（平成5～26年度）
⑫ 平成26年度新西部水処理センター環境モニタリング調査業務委託（平成27年3月）
⑬ 平成27年度多々良川水系感潮域環境調査業務委託（平成28年3月）
⑭ 九州大学統合移転事業環境監視調査　平成26年度　総合報告書（平成27年9月）
⑮ 平成28年度自然環境調査（水生生物）委託（平成29年3月）
⑯ 令和3年度自然環境調査（水生生物）委託（令和4年3月）

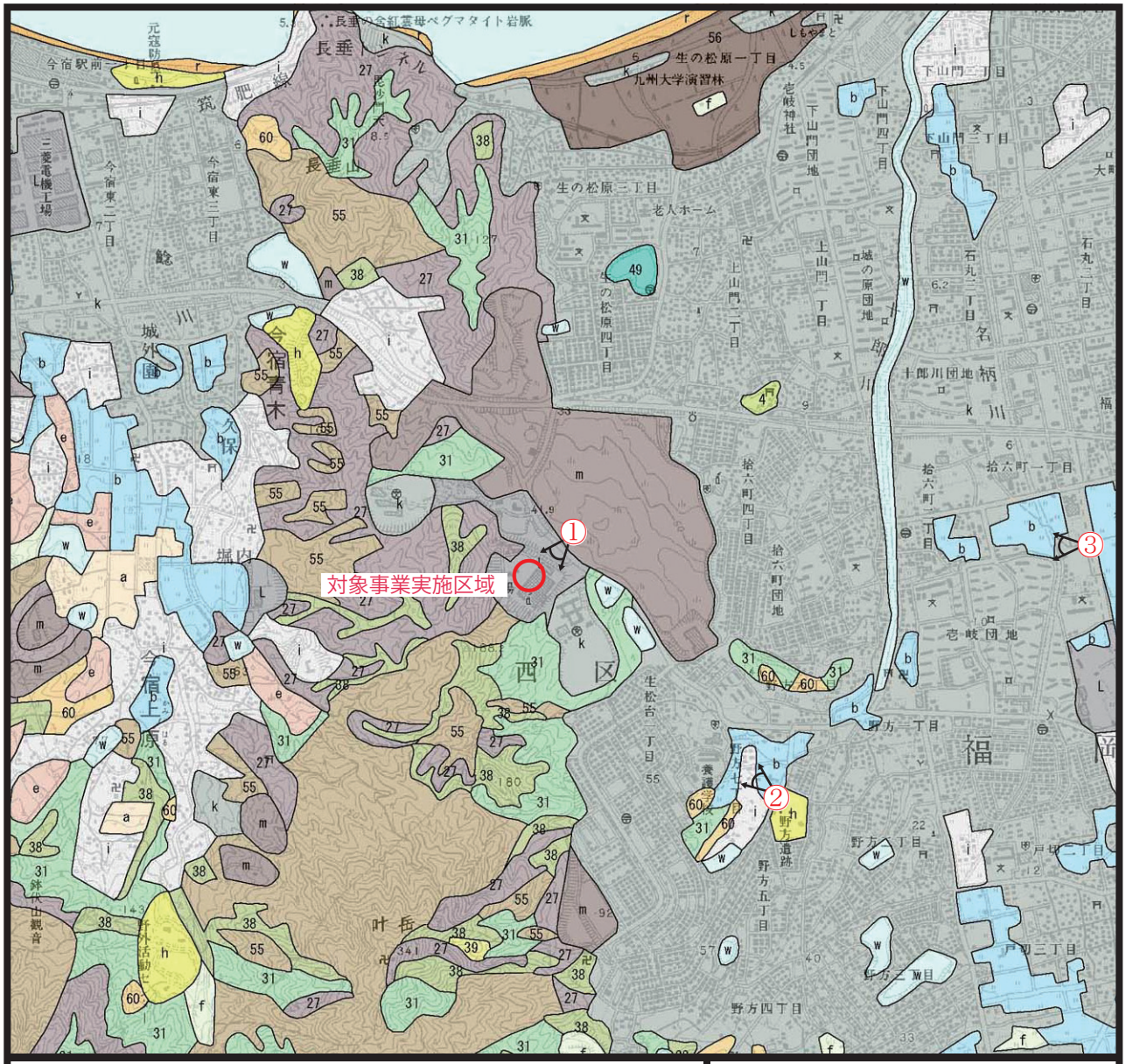
出典：「福岡市環境配慮指針（改定版）」（福岡市環境局）

2) 植物の生育状況

対象事業実施区域周辺の植生は、図 3.1.5-1 に示すとおりである。

図において、対象事業実施区域の北から東は造成地となっているが、現在は住宅地が整備され市街地が広がっている。また、南東から北西にかけてはコナラ群落、アカメガシワーカラスザンショウ群落、シイーカシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林、市街地などとなっており、これらの地域は現在も当時の植生と大きな変化はない。

また、「自然環境情報地図【西区⑤】貴重・希少生物等確認地図　植物・植物群落」は、図 3.1.5-2 に示すとおりであり、対象事業実施区域の北北東約 2.0km に位置する生の松原にクロマツ群落が、また南東約 0.6km、と 1.0km の野方地区においてクロマツ群落（いずれも福岡県の希少野生生物　福岡県レッドデータブック 2014 カテゴリーⅡ：対策必要　対策を講じなければ群落の状態が徐々に悪化する。）が確認されている。さらに、南南西約 1.4km の叶岳山頂付近にはヤブコウジースダジイ群集（福岡県レッドデータブック 2014 カテゴリーⅢ：破壊の危惧　現在は保護対策が功を奏しているが，将来は破壊の危惧が大きい。）が確認されている。



凡例

○：対象事業実施区域　①～③：撮影位置　：撮影方向

4	190500	イワシデ群落（ＩＶ）		56	540300	クロマツ植林
14	271201	ヤブコウジースダジイ群集		60	550000	竹林
21	300301	ウリノキーミズキ群落		h	560100	ゴルフ場・芝地
27	400100	シイ・カシ二次林		g	560200	牧草地
31	410100	コナラ群落（ＶＩＩ）		f	570100	路傍・空地雑草群落
38	410700	アカメガシワーカラスザンショウ群落		e	570200	果樹園
33	420100	アカマツ群落（ＶＩＩ）		a	570300	畑雑草群落
39	450102	ネザサースススキ群集		b	570400	水田雑草群落
40	450103	チガヤースススキ群落		d	570500	放棄水田雑草群落
43	460000	伐採跡地群落（ＶＩＩ）		k	580100	市街地
44	470400	ヨシクラス		i	580101	緑の多い住宅地
45	470401	ミゾソバーヨシ群落		L	580300	工場地帯
46	470501	ツルヨシ群集		m	580400	造成地
49	470600	ヒルムシロクラス		w	580600	開放水域
55	540100	スギ・ヒノキ・サワラ植林		r	580700	自然裸地

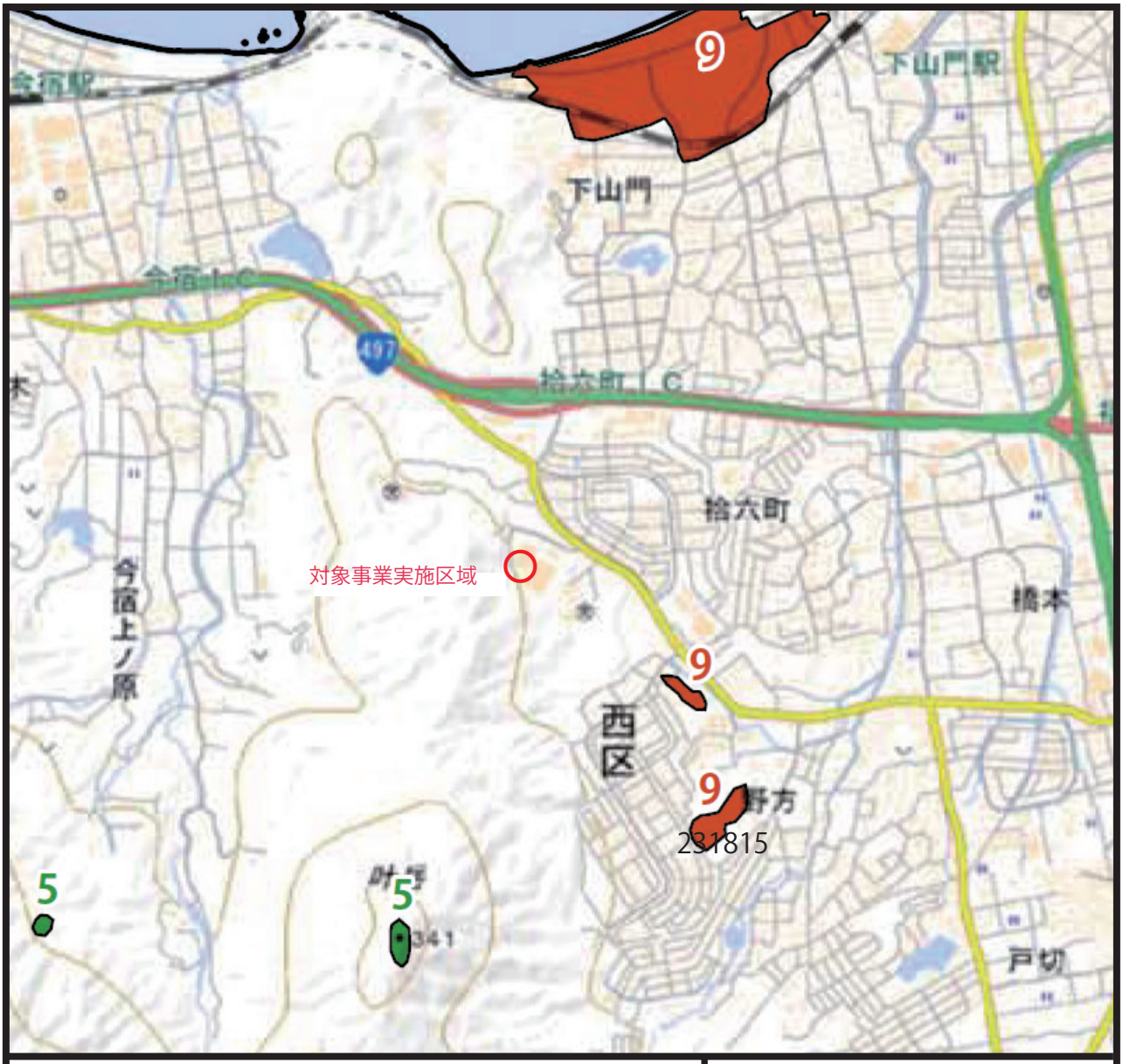
出典：自然環境保全基礎調査（第6回平成11～16年度、第7回平成17年度～）
自然環境Web-GIS 生物多様性センター（環境省自然環境局）ホームページ

N

S＝1:25,000

0　250　500　1000m

図3.1.5-1　対象事業実施区域及びその周辺における植生図



凡例

○ ：対象事業実施区域

5　ヤブコウジ-スダジイ群集

9　クロマツ群落

N

S＝1:25,000

0　250　500　1000m

図3.1.5-2　対象事業実施区域及びその周辺における貴重・希少な植物群落

出典：「福岡市環境配慮指針（改定版）」（福岡市環境局）

3) 生態系の状況

対象事業実施区域周辺における生物の生息・生育環境について、地形（図 3.1.4-1 参照）、地質（図 3.1.4-2 参照）、土壌（図 3.1.3-1 参照）、植生（図 3.1.5-1 参照）等の観点から区分し表 3.1.5-6 に示す。

対象事業実施区域は市街地と、二次林・植林の境界に位置しており、周辺の植生は、「2） 植物の生育状況」で示したとおり、北から東は住宅地、南東から北西にかけてはコナラ群落、アカメガシワーカラスザンショウ群落、シイーカシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林、市街地などとなっている。

また、写真 3.1.5-1（撮影位置は図 3.1.5-1 参照）は、周辺から対象事業実施区域を撮影したものである。これらより、対象事業実施区域周辺では、人為的な影響を受けた状況にある、環境に適応した動植物を主とした陸域生態系が形成されているものと考えられる。

表 3.1.5-6　対象事業実施区域周辺の自然環境の類型区分

<table>
<tr><th>類型区分</th><th>地形</th><th>地質</th><th>土壌</th><th>植生</th></tr>
<tr><td>市街地</td><td>（北部）
三角州、海浜砂丘、砂浜、人工改変地、丘陵地
（東部）
扇状地、人工改変地
（対象事業実施区域）
小起伏山地または人工改変地（宅地砕石）
（南部から西部）
小起伏山地</td><td rowspan="3">深成岩類、未固結堆積物の砂・泥・礫
（対象事業実施区域）
深成岩類（黒雲母花崗岩）</td><td>市街地その他</td><td rowspan="3">（北部から東部）
市街地
（南東から北西）
コナラ群落、アカメガシワーカラスザンショウ群落、シイーカシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林、市街地</td></tr>
<tr><td>ため池・河川</td><td>（十郎川水系）
低地（平野（扇状地、三角州））
（七寺川水系）
山地（小起伏山地）、低地（平野（三角州））</td><td>（十郎川水系）
市街地
（七寺川水系）
乾性褐色森林土、褐色森林土（黄褐系）、市街地その他</td></tr>
<tr><td>二次林・植林</td><td>（対象事業実施区域）
人工改変地
（南部から西部）
山地、山麓地、砂礫台地</td><td>（対象事業実施区域）
市街地その他
（南部から西部）
乾性褐色森林土、褐色森林土（黄褐系）</td></tr>
</table>

写真 3.1.5-1 (1/3) 対象事業実施区域を北北東から（撮影位置①）

写真 3.1.5-1 (2/3) 対象事業実施区域を南東から(撮影位置②)

写真 3.1.5-1 (3/3) 対象事業実施区域を東から（撮影位置③）

注：各写真ともに撮影位置は図 3.1.5-1 に示す

1.6　人と自然との触れ合いの活動の場及び景観の状況

1)　人と自然との触れ合いの活動の場の状況

対象事業実施区域及びその周辺の人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況は、表 3.1.6-1 及び図 3.1.6-1 に示すとおりである。

対象事業実施区域周辺は、福岡市街の西側に位置する閑静な住宅地が広がる地域であるとともに、周辺には緑豊かな森や公園、砂浜が存在しており、人と自然との触れ合いの活動の場となっている。

表 3.1.6-1　(1/2)　人と自然との触れ合いの活動の場の名称・概要

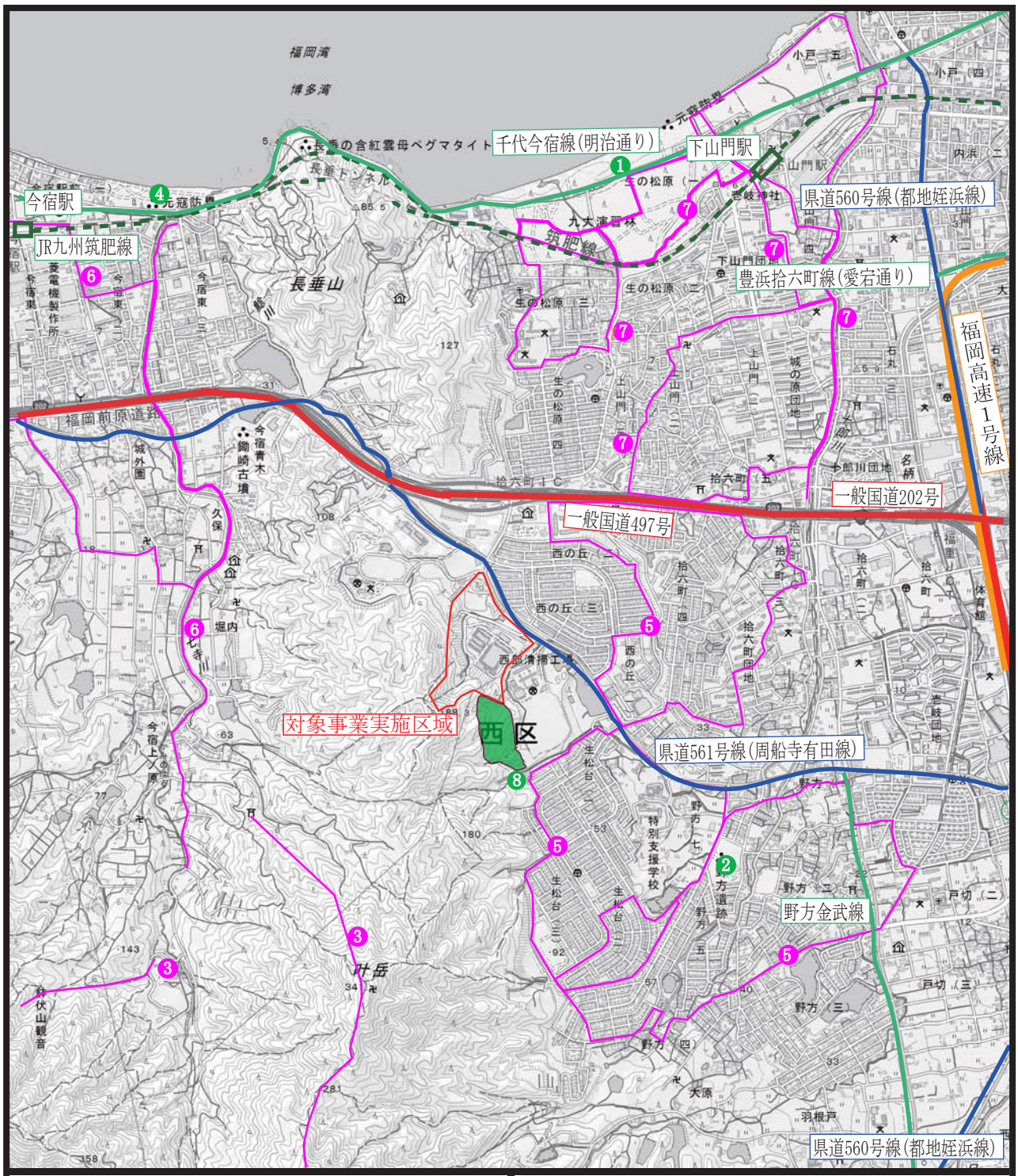
番号	名称	概要	対象事業実施区域からの方向・距離
1	生の松原	今津湾岸の弓状の浜にある美しい松原。松はクロマツで樹齢 100 年以上のものが多い。同じような松林が博多湾に沿って百道、箱崎、千代にもあったが、都市化で姿を消し、生の松原だけが現存する。元寇防塁（国指定史跡）が残り、能古島が眼前にあって眺めのよい海水浴場。	北北東・約 2km
2	野方遺跡 (野方中央公園)	弥生後期～古墳時代の国指定史跡。住居群と高床式倉庫群が別々に環濠で区切られている。住居跡からは多くの土器、石器、鉄器が発見されている。住居群展示館や復元住居などがあり、当時の生活が学べるようになっている。敷地内の公園には遊具などもあり遊べるようになっている。	南東・約 1.3km
3	今宿野外 活動センター (叶岳ハイキング コース)	今宿野外活動センターは、叶岳、高祖山などに囲まれた緑豊かな施設。都心部からのアクセスの良さに加え、広大な敷地内では、日帰りの野外調理や BBQ、宿泊キャンプ、川遊び、レクリエーション等さまざまな野外活動を楽しむことができる。また、叶岳ハイキングコースの叶嶽神社遙拝所付近は春には桜やツツジが美しく色を添える。途中の展望台からは今宿一帯の景色が一望できる。	南西・約 2km
4	長垂海浜公園	毎年 8 月には「まつり今宿・納涼花火大会」が行われる。江戸時代「鳳凰の渚」と呼ばれた海岸からは博多湾・能古島・今津湾が一望でき、ジョギングや散歩、夏には海水浴も楽しめる。	北西・約 2.5km
5	西区ウォーキング コース (壱岐エリア)	エリア内を流れる室見川では、シロウオや桜並木、渡り鳥など四季折々にさまざまな姿をみることができる。また、叶岳山頂からの眺めはもちろん、博多湾・今津湾を一望できるスポットや、コースの中には緑豊かな森や公園、閑静な住宅街があり、ウォーキング中の心を和ませる。弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡で、国指定史跡となっている野方遺跡もみることができる。	北北東から南南東にかけての近隣エリア
6	西区ウォーキング コース (今宿エリア)	JR 今宿駅を起点に歴史散策が楽しめる。今津湾に沿って元寇防塁を見ながら歩くコース、七寺川沿いに叶岳に向って歩くコースなどがある。今山や叶岳は糸島平野と今津湾を見渡すすばらしい景色を楽しむことができる。	北西から西南西にかけての近隣エリア

表 3.1.6-1 (2/2) 人と自然との触れ合いの活動の場の名称・概要

番号	名称	概要	対象事業実施区域からの方向・距離
7	西区ウォーキングコース（下山門エリア）	生の松原海岸では小戸から今津まで見わたすことができ、国指定史跡の元寇防塁がある。生の松原海岸森林公園には遊歩道が整備され、森林浴を楽しむことができる。 また、エリア内には元寇防塁のほかに神社や古墳もあり歴史にふれることもできる。	北から北北東にかけての近隣エリア
8	西区ふれあいの森	西区叶岳の裾野にあり、以前は国有林だったが、現在は福岡市に移管されている。住宅街のすぐ近くであり、サクラやモミジが植えられ、散策や植物・野鳥など身近な自然観察が出来る森である。	南南東・約 0m

注:番号は図 3.1.6-1 に対応する。

出典：「にしく楽しくウォーキングマップ」 福岡市ホームページ
「クロスロードふくおか」 福岡県観光連盟公式サイト
「今宿. Com」 今宿商協公式サイト
「福岡市立今宿野外活動センター」IMAJUKU コネクト特定非営利活動法人福岡市レクリエーション協会
「西区の宝一覧＜自然に関する宝＞」 福岡市西区ホームページ



凡例

- ：対象事業実施区域
- ：都市高速道路
- ：国道
- ：県道
- ：市道
- ：鉄道
- ：人と自然との触れ合いの活動の場
- ：ウォーキング、ハイキングコース

出典：「西区ウォーキングマップ」　福岡市ホームページ
「クロスロードふくおか」　福岡県観光連盟公式サイト
「西区登山マップ」　福岡市西区ホームページ
「西区の宝一覧」　福岡市西区ホームページ
農林水産局森林・林政課提供資料

N

S＝1:25,000

0　250　500　1000m

「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

図3.1.6-1　対象事業実施区域周辺の人と自然との触れ合いの活動の場

2) 景観の状況

対象事業実施区域及びその周辺における主要な眺望点及び景観資源の分布状況は、表 3.1.6-2 及び図 3.1.6-2 に示すとおりである。

対象事業実施区域周辺には、玄海国定公園として指定されている地域があり、生の松原、長垂海浜公園等が景観資源及び主要な眺望点としてあげられる。この他にも、眺望が良いことで有名な愛宕神社や展望台が設置されている小戸公園、叶岳がある。また、「第３回自然環境保全基礎調査」（平成元年　環境庁）には、含紅雲母ペグマタイト岩脈が自然景観資源として掲載されている。

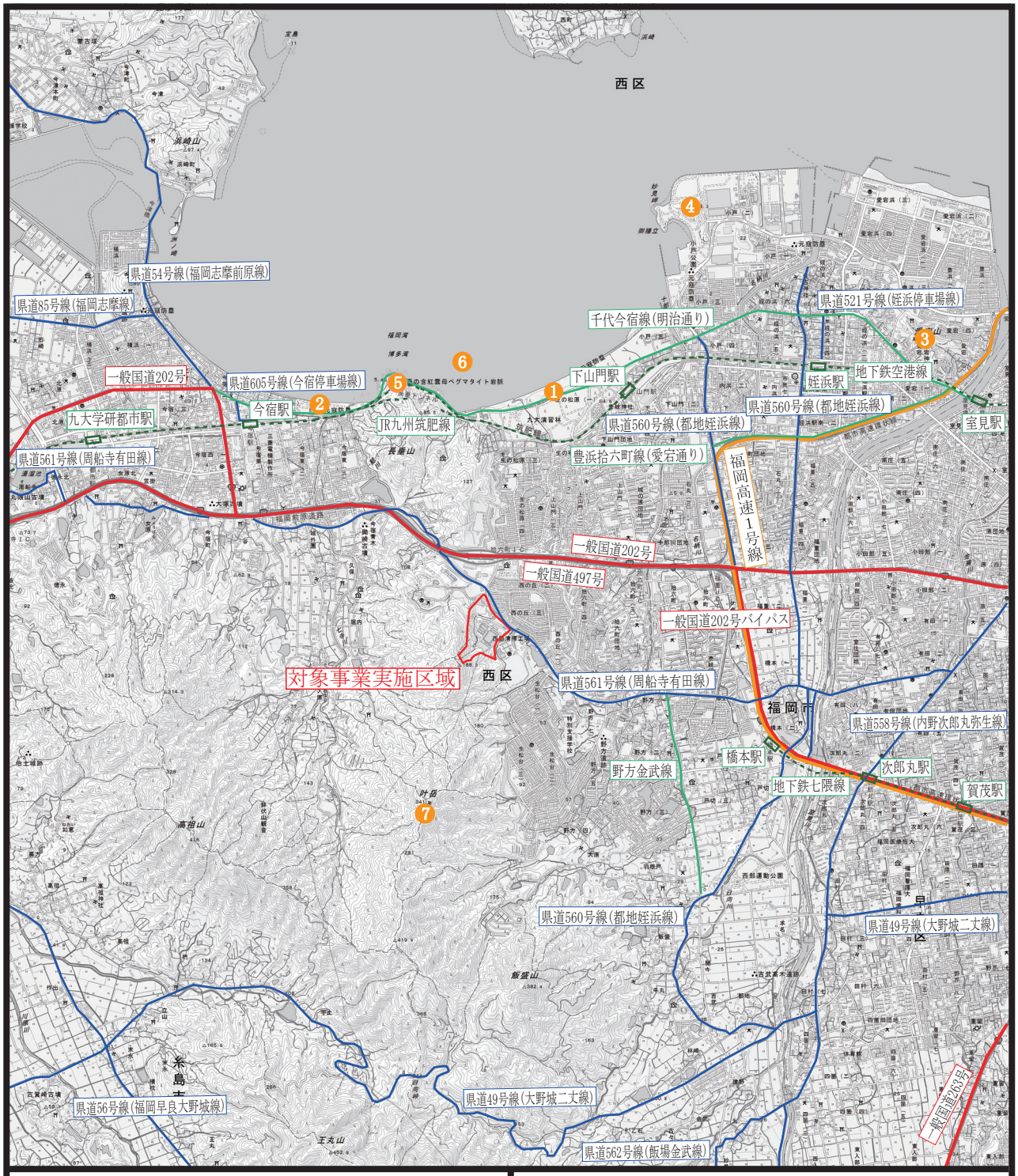
なお、対象事業実施区域及びその周辺域は、緑豊かな森や公園を有する閑静な住宅地等となっている。

表 3.1.6-2　主要な眺望点及び景観資源の状況

番号	区分	名称	概要	対象事業実施区域からの方向・距離
1	景観資源及び主要な眺望点	生の松原	白砂青松 100 選（（社）日本の松の緑を守る会選定）にも選ばれ、海岸景観に優れる玄海国定公園区域（第１種特別地域又は普通地域）内にある。元寇防塁（国指定史跡）が残る。	北北東・約 2km
2		長垂海浜公園	ジョギングや散歩、夏には海水浴も楽しめる公園。海岸景観に優れる玄海国定公園区域（普通地域）内にある。	北西・約 2.5km
3		愛宕神社	鎌倉、室町幕府の奉行所である鎮西探題、九州探題が置かれていた所と言われる。連歌師宗祇も、この辺りの景色を誉めた。江戸時代の初め頃、愛宕権現と呼ばれ「猪野にゃ七度、香椎にゃ三度、愛宕さまには月参り」と歌われ親しまれている。標高 68m からの博多湾の眺望は素晴らしい。日本三大愛宕の一つに数えられ、福岡一の「初日の出」の名所として有名。高神様で願い成就を祈るため、例年 70 万人の人出で大いに賑わう。	北東・約 4.5km
4	主要な眺望点	小戸公園（小戸展望台）	福岡市西区の海岸線沿いに整備された総合公園。博多湾に面したこの公園からは能古島を間近に見ることができる。	北北東・約 3.5km
5	景観資源	含紅雲母ペグマタイト岩脈	長垂の含紅雲母ペグマタイト岩脈。「第３回自然環境保全基礎調査」（平成元年　環境庁）に自然景観資源として掲載されている岩脈である。巨晶花崗岩といい、石英・雲母など 40 種を越す鉱物を含む火成岩。国の天然記念物。	北北西・約 2.5km
6		博多湾	博多湾周辺地域での住民生活においては、博多湾全体が景観資源として位置づけられる。	北・約 2.0km
7		叶岳から高地山へ続く山林	叶岳から高地山へ続く山林は、四季折々の風景が形成され、周辺地域の住民生活において、景観資源として位置づけられる。	南南西・0～約 2.6km

注:番号は図 3.1.6-2 に対応する。

出典：「クロスロードふくおか」　福岡県観光連盟公式サイト
「第３回自然環境保全基礎調査」　平成元年　環境庁
「全国観るなび」　公益社団法人 日本観光振興協会



凡例

- ：対象事業実施区域
- ：都市高速道路
- ：国道
- ：県道
- ：市道
- ：鉄道
- ：景観資源及び主要な眺望点等

出典：「西区ウォーキングマップ」　福岡市ホームページ
「クロスロードふくおか」　福岡県観光連盟公式サイト
「第３回自然環境保全基礎調査」　　平成元年　環境庁

N

S＝1:50,000

0　500　1000　2000m

「電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成」

図3.1.6-2　対象事業実施区域周辺の景観資源と主要な眺望点等